



# 地域医療連携における情報連携基盤 技術仕様

版番号： 0.2

パブリックコメント版

2013年10月25日

Copyright © 2013: 一般社団法人 日本 IHE 協会

改訂履歴

日付	版番号	改訂概要
2013年**月**日	*.**	初版発行

# 目次

1.	はじめに .....	5
2.	範囲 .....	5
3.	用語および定義 .....	5
4.	シンボルおよび略語 .....	6
5.	要求事項 .....	7
5.1.	適用文書 .....	7
5.2.	適合宣言 .....	7
6.	地域医療連携の概要 .....	7
7.	地域医療連携における情報連携基盤の仕様 .....	10
7.1.	地域医療連携において利用すべき統合プロファイル .....	10
7.2.	地域医療連携における統合プロファイル間の依存関係 .....	11
8.	Patient Identifier Cross-referencing (PIX) : 患者 ID 相互参照 .....	12
9.	Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3) : 患者 ID 相互参照 V3 .....	15
10.	Patient demographics Query (PDQ) : 患者基本情報の問い合わせ .....	17
11.	Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3) : 患者基本情報の問い合わせ V3 .....	19
12.	Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b) : 施設間情報共有 .....	20
13.	Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging (XDS-I.b) : 画像のための施設間情報共有 .....	23
14.	Cross-Community Access (XCA) : コミュニティ間連携 .....	26
15.	Consistent Time (CT) : 時刻同期 .....	28
16.	Audit Trail and Node Authentication (ATNA) : 監査証跡およびノード認証 .....	29
17.	日本国内拡張 .....	31
17.1.	Record Audit Event [ITI-20]の日本国内拡張 .....	31
17.1.1.	Patient Identifier Cross-referencing (PIX)の監査ログ .....	31
17.1.1.1.	Patient Identity Feed [ITI-8]および Patient Identity Management [ITI-30] .....	31
17.1.1.1.1.	Patient Identity Source アクタの監査ログメッセージ .....	31
17.1.1.1.2.	Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ .....	35
17.1.1.2.	PIX Query [ITI-9] .....	38
17.1.1.2.1.	Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ .....	38
17.1.1.2.2.	Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ .....	41
17.1.1.3.	PIX Update Notification [ITI-10] .....	44
17.1.1.3.1.	Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ .....	44
17.1.1.3.2.	Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ .....	47
17.1.2.	Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3)の監査ログ .....	50
17.1.2.1.	Patient Identity Feed HL7 V3 [ITI-44] .....	50
17.1.2.1.1.	Patient Identity Source アクタの監査ログメッセージ .....	50

17.1.2.1.2.	Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ	54
17.1.2.2.	PIXV3 Query [ITI-45]	56
17.1.2.2.1.	Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ	56
17.1.2.2.2.	Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ	59
17.1.2.3.	PIXV3 Update Notification [ITI-46]	62
17.1.2.3.1.	Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ	62
17.1.2.3.2.	Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ	65
17.1.3.	Patient demographics Query (PDQ)の監査ログ	68
17.1.3.1.	Patient Demographics Query [ITI-21]	68
17.1.3.1.1.	Patient Demographics Consumer アクタの監査ログメッセージ	68
17.1.3.1.2.	Patient Demographics Supplier アクタの監査ログメッセージ	71
17.1.4.	Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3)の監査ログ	74
17.1.4.1.	Patient Demographics Query HL7 V3 [ITI-47]	74
17.1.4.1.1.	Patient Demographics Consumer アクタの監査ログメッセージ	74
17.1.4.1.2.	Patient Demographics Supplier アクタの監査ログメッセージ	77
17.1.5.	Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b)の監査ログ	80
17.1.5.1.	Registry Stored Query [ITI-18]	80
17.1.5.1.1.	Document Consumer アクタの監査ログメッセージ	80
17.1.5.1.2.	Document Registry アクタの監査ログメッセージ	83
17.1.5.2.	Provide and Register Document Set-b [ITI-41]	86
17.1.5.2.1.	Document Source アクタの監査ログメッセージ	86
17.1.5.2.2.	Document Repository アクタの監査ログメッセージ	89
17.1.5.3.	Register Document Set-b [ITI-42]	92
17.1.5.3.1.	Document Source アクタの監査ログメッセージ	92
17.1.5.3.2.	Document Registry アクタの監査ログメッセージ	95
17.1.5.4.	Retrieve Document Set [ITI-43]	98
17.1.5.4.1.	Document Consumer アクタの監査ログメッセージ	98
17.1.5.4.2.	Document Repository アクタの監査ログメッセージ	101
17.1.6.	Record Audit Event [ITI-20]におけるコード定義	103

## 1. はじめに

医療機関への電子カルテの普及が進みつつある今日、医療機関の連携による医療サービスの実現に国民の期待がかかっている。しかしながら、電子カルテ間の連携様式はベンダにより異なっているため、連携システム構築のハードルが高く、かつ広域連携が困難となっている。

Integrating the Healthcare Enterprise (以下 IHE とする) による標準規格を用いたシステム構築仕様は、医療連携の標準化を推進しており、現在世界各国で採用が進んでいる。IHE とは、複数システムが協調して動作する情報処理のシナリオ (統合プロファイル) を実現するために、各システムが受け持つ機能 (アクタ) とそれらの通信 (トランザクション) を定めた仕様 (テクニカルフレームワーク) であり、その特徴は標準規格を整合性のとれた形で適用できることである。

本仕様では地域医療連携における情報連携基盤として、IHE の定めたテクニカルフレームワークの中から必要なものを採用した。

## 2. 範囲

本仕様書は、地域医療連携情報システムを構築する際に、参加施設の情報システム間で患者 (個人) の識別情報および医療情報等を共有するのに必要な情報連携基盤の仕様を定めたものである。

## 3. 用語および定義

このドキュメントに必要な用語および定義は以下の通りである

用語	定義
<b>Actor</b>	アクタ。病院業務に関連した情報を作り出し、管理し、操作する情報システムや情報システムのコンポーネント
<b>Digital Imaging and Communications in Medicine</b>	略称 DICOM。医療用デジタル画像とその通信のための標準規格
<b>electronic business XML</b>	略称 ebXML。電子商取引のための標準的 XML 仕様あるいはそれを決めている団体
<b>Health Level 7</b>	略称 HL7。医療情報交換のための標準規約で、患者管理、オーダ、照会、検査報告などの情報交換を取り扱う
<b>IHE Integration Statements</b>	IHE 統合宣言のこと。IHE 統合宣言は、製造者によって公開される文書で、製品における IHE テクニカルフレームワークとの適合性を記述したもの
<b>Integrating the Healthcare Enterprise</b>	医療連携のための情報統合化プロジェクトであり、医療情報の標準化へ向け、業務フローに従った DICOM、HL7 といった標準規格の適用ガイドラインを作成し、ベンダのシステムへの実装、接続テストを実施する体

	制を構築している
<b>Integration Profiles</b>	統合プロファイル。多くの医療機関において利用できる共通のシステム統合モデルであり、アクタ(Actor)とトランザクション(Transaction)で示される。ワークフロー、コンテンツ、インフラを示すものがある
<b>Technical Framework</b>	テクニカルフレームワーク。IHEにおける最も基本的な文書。IHEのシナリオモデルである「統合プロファイル」の他、通信処理（トランザクション）の仕様等が記されている
<b>Transaction</b>	トランザクション。IHEの場合、統合プロファイル内の各機能を提供する「アクタ(Actor)」同士の通信処理をこのように呼んでいる
コミュニティ	臨床記録を共有する目的のために共通ポリシーにより共同で作業することを合意した施設／機関の集合体。
ポリシー	地域医療連携情報システムを構築する際に、運営主体となる組織において参加する施設間での共通な合意事項のこと。

このドキュメントに必要なその他の用語および定義は、IHE-ITI Technical Framework Rev, 9.0 および IHE-Radiology Technical Framework Rev, 11.0 を参照すること。

#### 4. シンボルおよび略語

このドキュメントに必要なシンボルおよび略語は以下の通りである

- IHE            Integrating the Healthcare Enterprise
- ITI            Information Technology Infrastructure
- TF             Technical Framework
- HL7            Health Level 7
- DICOM        Digital Imaging and Communications in Medicine
- CDA            Clinical Document Architecture
- ebXML         electronic business XML
- TCP/IP        Transmission Control Protocol/Internet Protocol
- SOAP         Simple Object Access Protocol
- TLS            Transport Layer Security

- RFC Request for Comments
- NTP Network Time Protocol

## 5. 要求事項

### 5.1. 適用文書

本仕様は、以下の文書に準拠するものとする。

- IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0
- IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0
- IHE-ITI Technical Framework Volume 2b Rev, 9.0
- IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0
- IHE-ITI Technical Framework Volume 3 Rev, 9.0
- IHE-Radiology Technical Framework Volume 1 Rev, 11.0
- IHE-Radiology Technical Framework Volume 2 Rev, 11.0
- IHE-Radiology Technical Framework Volume 3 Rev, 11.0
- IHE-Radiology Technical Framework Volume 4 Rev, 11.0

### 5.2. 適合宣言

本仕様の適合を宣言する場合は、「IHE 統合宣言書」を発行することとする。その書式と内容は、IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0 Appendix C および IHE-Radiology Technical Framework Volume 1 Rev, 11.0 Appendix D を参考にすること。

## 6. 地域医療連携の概要

地域医療連携における情報連携として、図1のようなシナリオを想定する。ここでは、複数の医療機関A、B、C、Dがあり、患者はA機関で救急の治療を受け、B機関に入院、C機関で長期療養を行い、近隣の診療所Dで診療を受けたとする。診療所Dの医師は、患者から過去の治療経緯を聞くだけでなく、医療機関A、B、Cから必要な医療情報を参照したいと考える。このシナリオを実現するために、コミュニティの内部に情報の所在管理だけを行うセンタを設置し、実際の情報は各医療機関が保管しておく。診療所Dに行った患者の過去の情報がどこにあるかは、所在管理センタへの問い合わせで知ることができる。コミュニティの中では、患者はどの医療機関に行っても、医療機関は所在情報にアクセスして情報の在り処を知り、過去の医療情報を利用することができる。

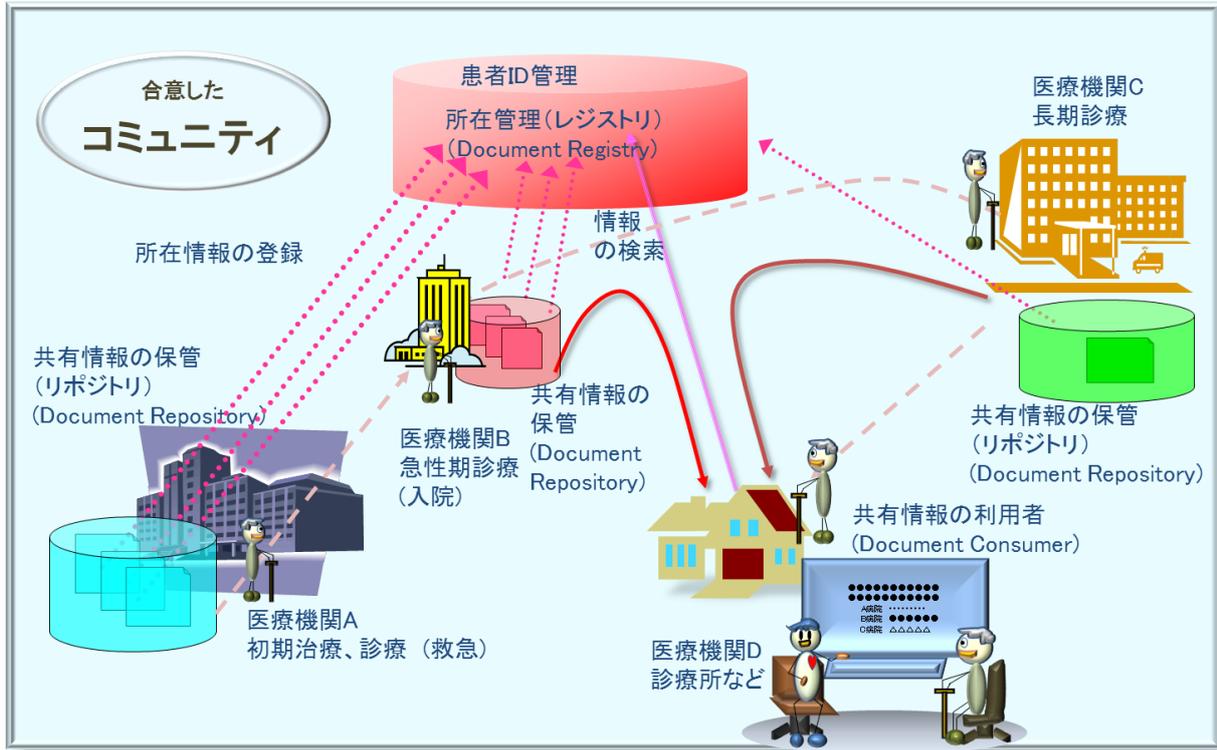


図1 連携基盤の概要(XDS)

施設ごとに異なる患者IDを相互に参照する場合、患者IDソース(Patient Identity Source)、患者ID相互参照マネージャ(Patient Identity Cross-reference Manager)、患者ID利用者(Patient Identifier Cross-reference Consumer)の3つの機能を設置する(図2参照)。患者IDは、各医療機関の患者IDソース(Patient Identity Source)によって、中央にある患者ID相互参照マネージャ(Patient Identity Cross-reference Manager)に登録される。患者ID相互参照マネージャ(Patient Identity Cross-reference Manager)は、医療機関からの患者IDの対応付け(マッピング)を行なう。情報にアクセスしたい医療機関は、患者ID利用者(Cross-reference Consumer)を使って患者ID相互参照マネージャ(Patient Identity Cross-reference Manager)に問い合わせる。その結果、自病院の患者IDから医療連携するコミュニティ全体の中のID(グローバルID)を知ることができる。

コミュニティ間での情報連携を行う場合は、図3のように専用の機能(ゲートウェイ アクタ)を設置し、コミュニティ間通信を行う。各コミュニティの利用者の要求を外部に問い合わせる機能を開始ゲートウェイ(Initiating Gateway)と呼び、外部にあるコミュニティからの問い合わせに応じる機能を応答ゲートウェイ(Responding Gateway)と呼ぶ。開始ゲートウェイ(Initiating Gateway)が応答ゲートウェイ(Responding Gateway)に問い合わせを順次行うことで、情報の検索を行うことができる。通信を開始するにはコミュニティ間でのポリシーの合意など、いくつかの前提条件(共通の用語を採用していることなど)が必要である。

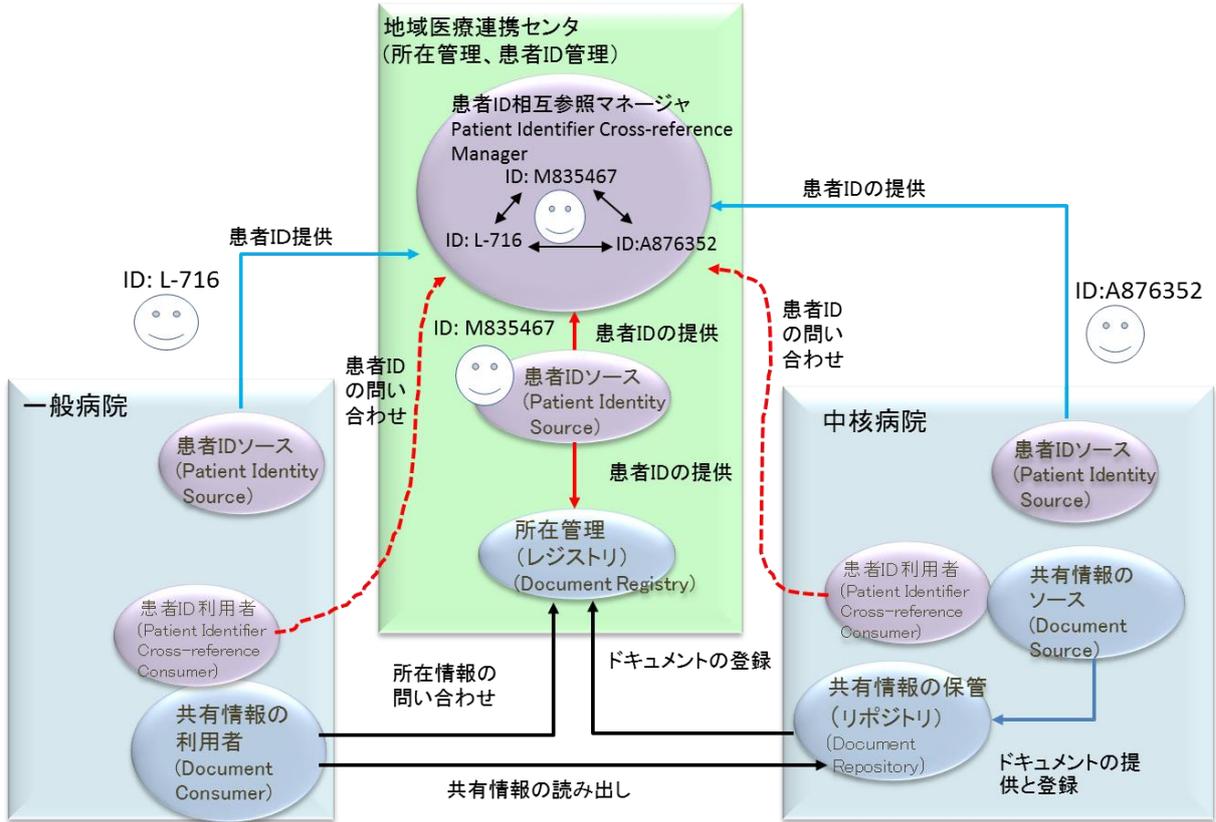


図2 患者IDの相互参照方法(PIX,PDQ)

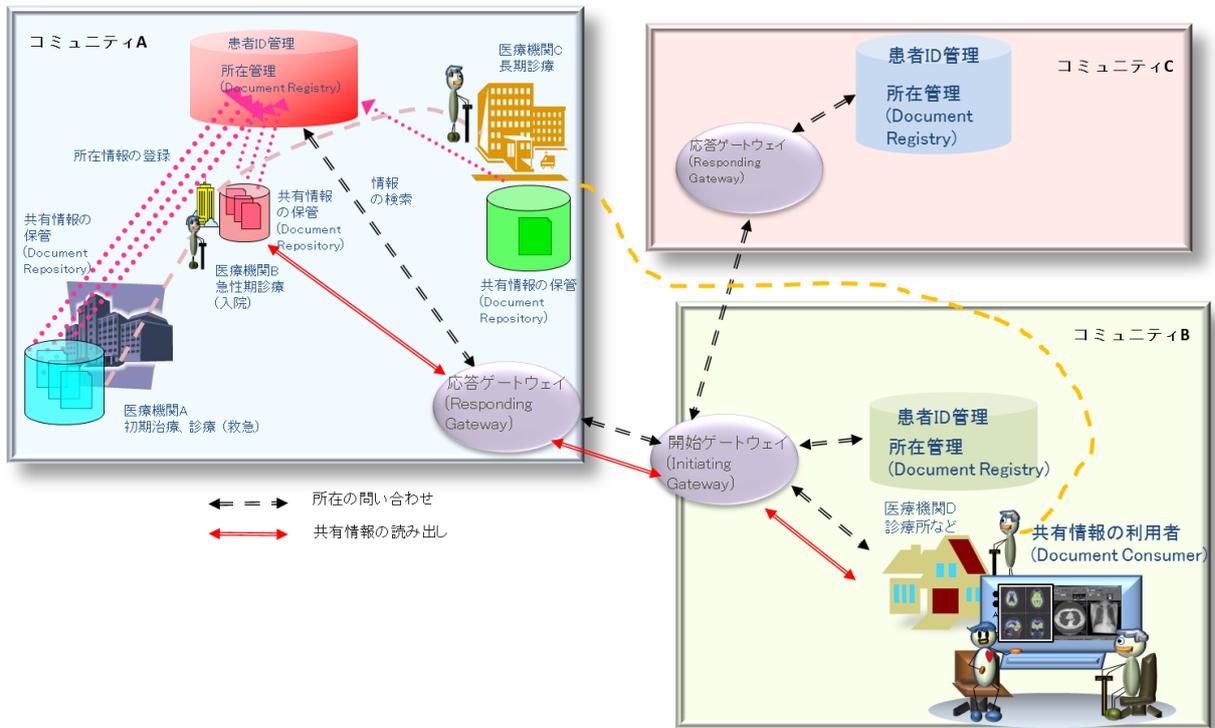


図3 コミュニティを越えた連携(XCA)

地域医療連携情報システムを構築する際には、技術仕様を定めるのと同様に運営主体となる組織を構築し、参加する施設間での共通な合意事項(ここではポリシーと呼ぶ)を定める必要がある。組織的規約、参加資格・メンバ規約(役割・アクセス権限)、運営規約、患者プライバシー保護方針・同意の取り方、患者IDの管理方法、技術的セキュリティ、参加施設外からの接続方法、等円滑な運営に必要な取り決め内容が含まれる。ポリシーに関してはそれぞれのコミュニティで定めることであり、IHE-ITI Technical Frameworkではスコープ外となっている。

## 7. 地域医療連携における情報連携基盤の仕様

IHE では、地域医療連携に必要な標準的仕様としていくつかの統合プロファイルが定められている。本仕様では以下の統合プロファイルを採用することとする。

- Patient Identifier Cross-referencing (PIX)
- Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3)
- Patient demographics Query (PDQ)
- Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3)
- Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b)
- Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging (XDS-I.b)
- Cross-Community Access (XCA)
- Consistent Time (CT)
- Audit Trail and Node Authentication (ATNA)

### 7.1. 地域医療連携において利用すべき統合プロファイル

本仕様で利用する統合プロファイルの一覧と選択について、表 7.1 に示す。

オプションの項目にある、R は必須を、O はオプション、C は選択可能であることを表している。

表 7.1 : 利用すべき統合プロファイルの選択

統合プロファイル	オプション	備考
Patient Identifier Cross-referencing (PIX)	C <sub>1</sub>	PIX もしくは PIXV3 のどちらかを 利用する必要がある
Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3)	C <sub>1</sub>	PIX もしくは PIXV3 のどちらかを 利用する必要がある
Patient demographics Query (PDQ)	C <sub>2</sub>	患者属性情報の検索が必要な場合 は、PDQ もしくは PDQV3 のどち らかを利用する必要がある

Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3)	C <sub>2</sub>	患者属性情報の検索が必要な場合は、PDQ もしくは PDQV3 のどちらかを利用する必要がある
Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b)	R	
Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging (XDS-I.b)	C <sub>3</sub>	地域医療連携で医用画像も対象とする場合は利用する必要がある
Cross-Community Access (XCA)	O	
Consistent Time (CT)	R	
Audit Trail and Node Authentication (ATNA)	R	

7.2. 地域医療連携における統合プロフィール間の依存関係

ある統合プロフィールの実装に他の統合プロフィールに定義された機能が必要な場合、依存関係が存在する。表 7.2 に、地域医療連携における統合プロフィール間の依存関係を示す。

いくつかの依存では、あるプロフィールに必要なアクタが他の統合プロフィールに必要なひとつ以上のアクタとグループ化されることがある。

表 7.2 : 統合プロフィール間の依存関係

統合プロフィール	依存する統合プロフィール	依存の形	目的
PIX	CT	PIX を実装するそれぞれのアクタは Time Client アクタとグループ化する	複数の更新による衝突を管理し、解決のために利用される
PIXV3	CT	PIX を実装するそれぞれのアクタは Time Client アクタとグループ化する	複数の更新による衝突を管理し、解決のために利用される
PDQ	無し		
PDQV3	無し		
XDS.b	ATNA	XDS アクタは ATNA セキュアノードかセキュアアプリケーションアクタにグループ化する	出力された監査証跡ならびにノード認証と通信の暗号化を管理する
	CT	XDS アクタは Time Client アクタとグループ化する	Document と Submission Set の日付の一貫性を確保する

XDS-I.b	XDS.b	XDS.b より、Document Consumer, Document Registry, Document Repository アクタが必要である	Document Content タイプと Metadata が利用される
	ATNA	XDS-I.b アクタはセキュアノードかセキュアアプリケーションアクタにグループ化する	出力された監査証跡ならびにノード認証と通信の暗号化を管理する
XCA	ATNA	XCA アクタは ATNA セキュアノードかセキュアアプリケーションアクタにグループ化する	出力された監査証跡ならびにノード認証と通信の暗号化を管理する
	CT	XCA アクタは Time Client アクタとグループ化する	Document と Submission Set の日付の一貫性を確保する
CT	無し		
ATNA	CT	ATNA のセキュアノードアクタは Time Client アクタとグループ化する	監査ログの時刻の一貫性を確保する

ある統合プロファイルを実装しようとするとき、依存する統合プロファイルが存在する場合は、依存する統合プロファイルの必須トランザクションも実装しなければならない。

## 8. Patient Identifier Cross-referencing (PIX) : 患者 ID 相互参照

本プロファイルは複数の患者 ID ドメインからの患者 ID の相互参照方法を提供する。相互参照された患者 ID は、異なる ID を持つ患者を一人の患者として関連づけることに利用することができる。

これらの相互参照された患者 ID は「患者 ID コンシューマ」で利用され、別々の ID で記録されている情報ソースから、一人の患者についての情報を関連づけることが可能である。これにより、臨床医は患者のより完全な情報を閲覧することができる。

PIX は、あらゆる医療機関（病院、診療所、など）を対象としたものである。以下の機能を介して、患者 ID の相互参照を可能とする。

- 患者 ID を各 ID ソースから患者 ID 相互参照マネージャへ伝達
- 問合せ・返答、もしくは更新通知による患者 ID 相互参照リストの入手

この統合プロファイルは特定のアクタ間でのトランザクションを規定するが、施設ごとのポリシーや相互参照アルゴリズムを規定しない。この統合プロファイルは必要な相互運用性を提供しながらも、施設が適切とする相互参照ポリシーおよびアルゴリズムが使用できる柔軟性を維持している。

以下の図に、この統合プロファイルが意図する範囲を示す。

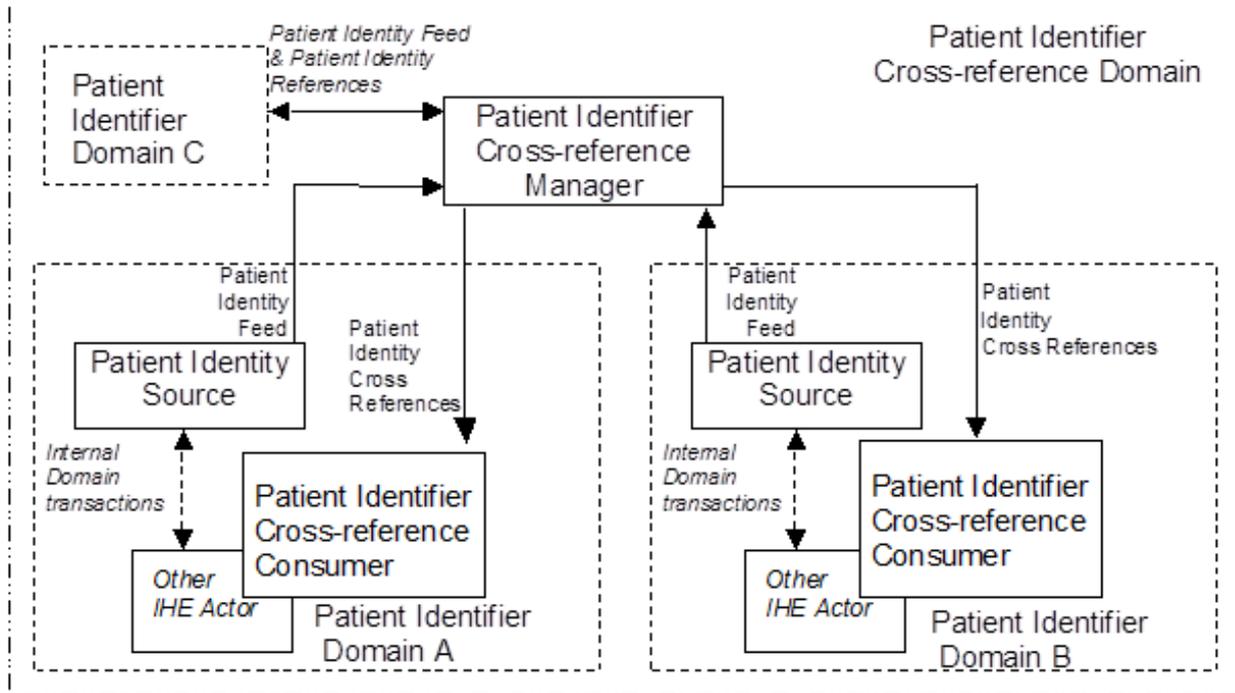


図 8.1 患者 ID 相互参照での処理の流れ

図 8.1 では患者 ID ドメインと患者 ID 相互参照ドメインの患者 ID ドメインとしての二つの型を示す。患者 ID ドメインは、共通の患者 ID 方式（識別子と患者への割り付け処理）と、患者 ID の発行権限を持つシステム、あるいは連携する複数システムのセットである。

図 8.2 に本プロファイルに直接含まれるアクタと、関連するトランザクションを示す。

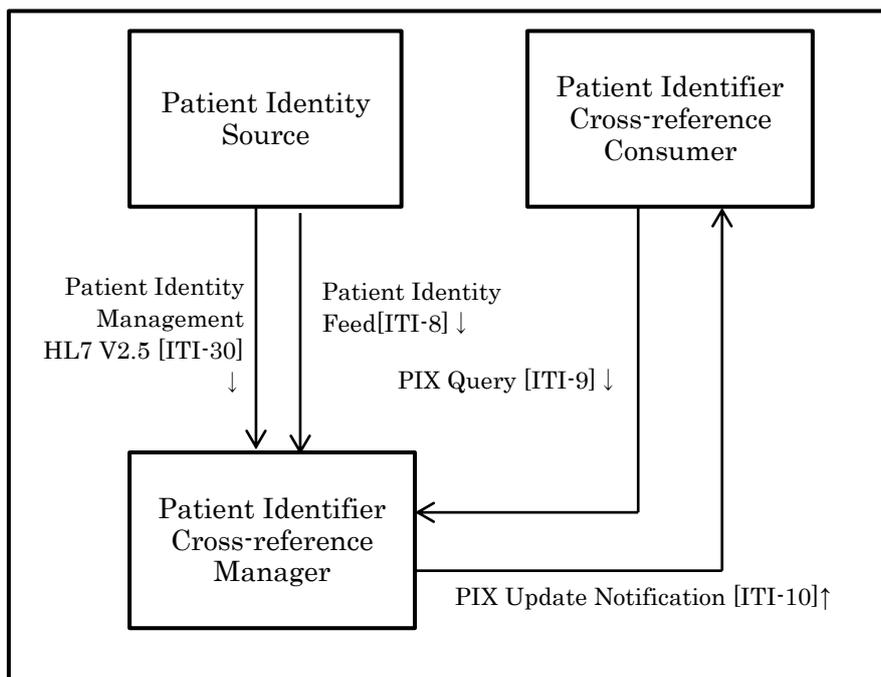


図 8.2 Patient Identifier Cross-referencing (PIX) のアクタおよびトランザクション

表 8.1 に患者識別相互参照統合プロファイルに直接含まれるトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装製品は必須トランザクション（”R”と表記）を実行できなければならない。”O”と表記されたトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定められたオプションで、実装製品が選択可能なオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 5.2 にある。

表 8.1: 患者 ID 相互参照統合プロファイル—アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Patient Identity Source	Patient Identity Feed [ITI-8]	R	ITI TF-2a: 3.8
	Patient Identity Management [ITI-30]	O	ITI TF-2b: 3.30
Patient Identifier Cross-reference Consumer	PIX Query [ITI-9]	R	ITI TF-2a: 3.9
	PIX Update Notification [ITI-10]	O	ITI TF-2a: 3.10
Patient Identifier Cross-reference Manager	Patient Identity Feed [ITI-8]	R	ITI TF-2a: 3.8
	Patient Identity Management [ITI-30]	O	ITI TF-2b: 3.30
	PIX Query [ITI-9]	R	ITI TF-2a: 3.9
	PIX Update Notification [ITI-10]	R	ITI TF-2a: 3.10

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0

5. Patient Identifier Cross-referencing (PIX)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0

3.8 Patient Identity Feed

3.9 PIX Query

3.10 PIX Update Notification

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0

C.2.2 Message Control

C.2.3 Acknowledgement Modes

C.2.4 Common Segment Definitions

### 9. Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3) : 患者 ID 相互参照 V3

本統合プロファイルの機能は、8. Patient Identifier Cross-referencing (PIX)で説明された PIX 統合プロファイルと同等である。相違点は、メッセージ書式や SOAP に基づいた Web サービスの使用である。これらの変更により本統合プロファイルが既存の IT インフラ内における施設間でのデータアクセスと交換のための使用により適したものとなった。

図 9.1 は Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 におけるアクタとトランザクションの関係を説明したものである。

本統合プロファイルは、複数の患者 ID ドメインからの患者 ID の相互参照方法を提供する。相互参照された患者 ID は、異なる ID を持つ患者を一人の患者として関連づけることに利用することができる。

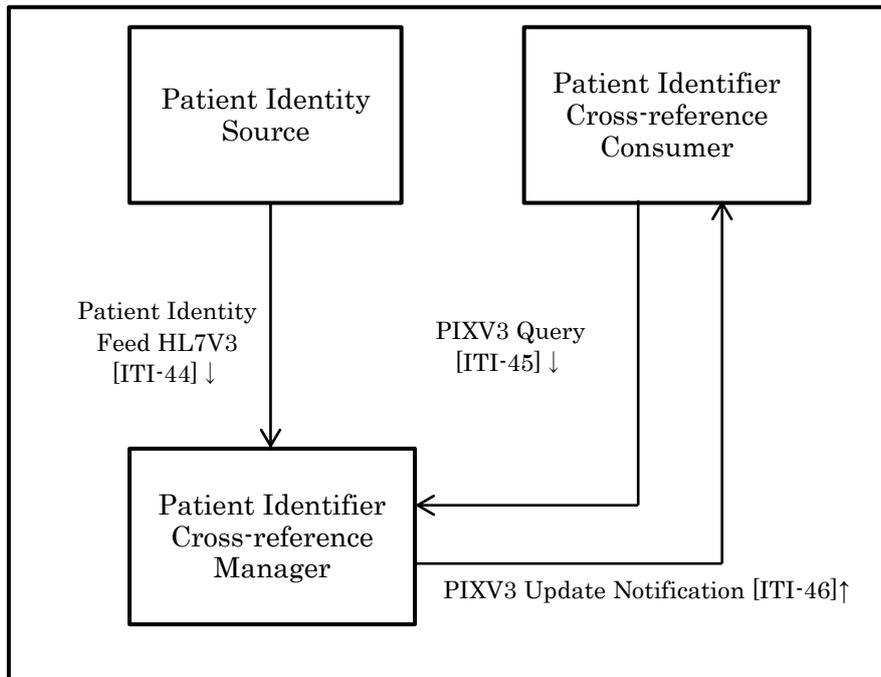


図 9.1 Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3)のアクタおよびトランザクション

表 9.1 に患者識別相互参照に直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須のトランザクション（”R”と表記）を実行できなければならない。”O”と表記されたトランザクションはオプションである。この統合プロファイルに定義され、実装者が選択可能なオプションの完全な一覧は ITI TF-1: 23.2 にある。

表 9.1: 患者 ID 相互参照 HL7 V3 統合プロファイル—アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Patient Identity Source	Patient Identity Feed HL7 V3 [ITI-44]	R	ITI TF-2b: 3.44
Patient Identifier	PIXV3 Query [ITI-45]	R	ITI TF-2b: 3.45
Cross-reference Consumer	PIXV3 Update Notification [ITI-46]	O	ITI TF-2b: 3.46
Patient Identifier	Patient Identity Feed HL7 V3 [ITI-44]	R	ITI TF-2b: 3.44
Cross-reference Manager	PIXV3 Query [ITI-45]	R	ITI TF-2b: 3.45
	PIXV3 Update Notification [ITI-46]	R	ITI TF-2b: 3.46

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0

23. Patient Identifier Cross-referencing HL7 V3 (PIXV3)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2b Rev, 9.0

3.44 Patient Identity Feed HL7 V3

3.45 PIXV3 Query

3.46 PIXV3 Update Notification

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0

Appendix E Usage of the CX Data Type in PID-3-Patient Identifier List

Appendix K XDS Security Environment

Appendix O HL7 v3 Transmission and Trigger Event Control Act Wrappers

Appendix V Web Services for IHE Transactions

Appendix W Implementation Material

## 10. Patient demographics Query (PDQ) : 患者基本情報の問い合わせ

本統合プロファイルは、ユーザ定義の検索条件に基づき、患者情報を保持したサーバに患者のリストの問い合わせを行い、患者基本情報および、オプションである来院もしくは来院に関する情報を取得するための方法を提供する。

図 10.1 は Patient demographics Query におけるアクタとトランザクションの関係を説明したものである。

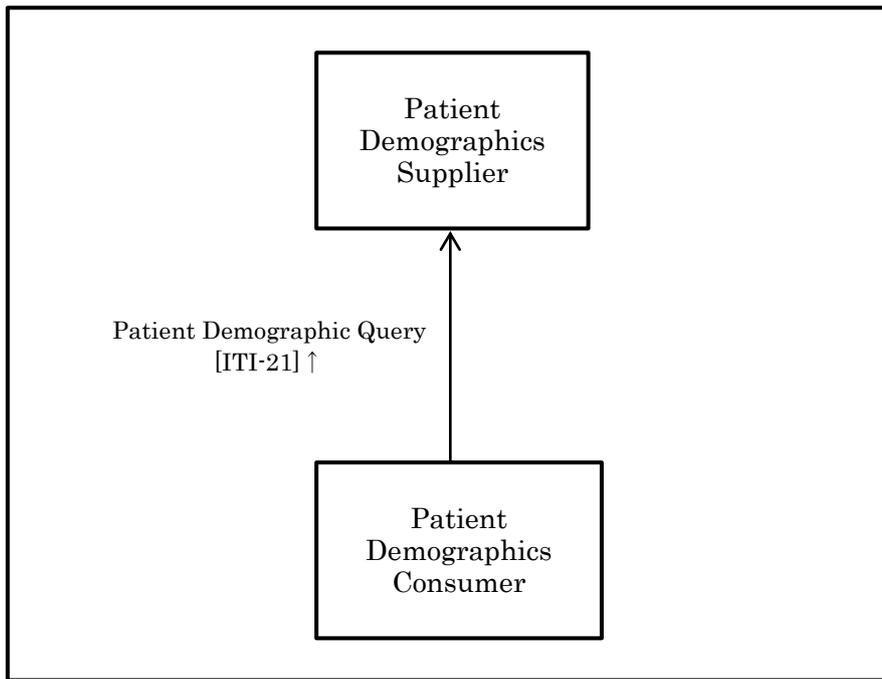


図 10.1 Patient demographics Query (PDQ) のアクタおよびトランザクション

表 10.1 は患者基本情報問い合わせプロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R"表記) が実行できなければならない。"O"表記のトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 8.2 にある。

表 10.1: 患者基本情報問合せ—アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Patient Demographics Consumer	Patient Demographics Query [ITI-21]	R	ITI TF-2a: 3.21
Patient Demographics Supplier	Patient Demographics Query [ITI-21]	R	ITI TF-2a: 3.21

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0

8. Patient Demographics Query (PDQ)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0

3.21 Patient Demographics Query

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0

C.2.2 Message Control

C.2.3 Acknowledgement Modes

C.2.4 Common Segment Definitions

Appendix M: Using Patient Demographics Query in a Multi-Domain Environment

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 に記載のある Patient Demographic And Visit Query [ITI-22]は、地域医療連携では使用しないため本仕様の範囲外である。

### 11. Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3) : 患者基本情報の問い合わせ V3

本統合プロファイルの機能は、10. Patient demographics Query (PDQ)で説明した PDQ 統合プロファイルと同等である。相違点は、メッセージ書式や SOAP に基づいた Web サービスの使用である。これらの変更により本統合プロファイルが既存の IT インフラ内における施設間でのデータアクセスと交換のための使用により適したものとなった。

図 11.1 は Patient Demographic Query HL7 V3 におけるアクタとトランザクションの関係を説明したものである。

本統合プロファイルは、ユーザ定義の検索条件に基づき、患者情報を保持したサーバに複数の施設から患者のリストの問い合わせを行い、患者基本情報を取得するための方法を提供する。

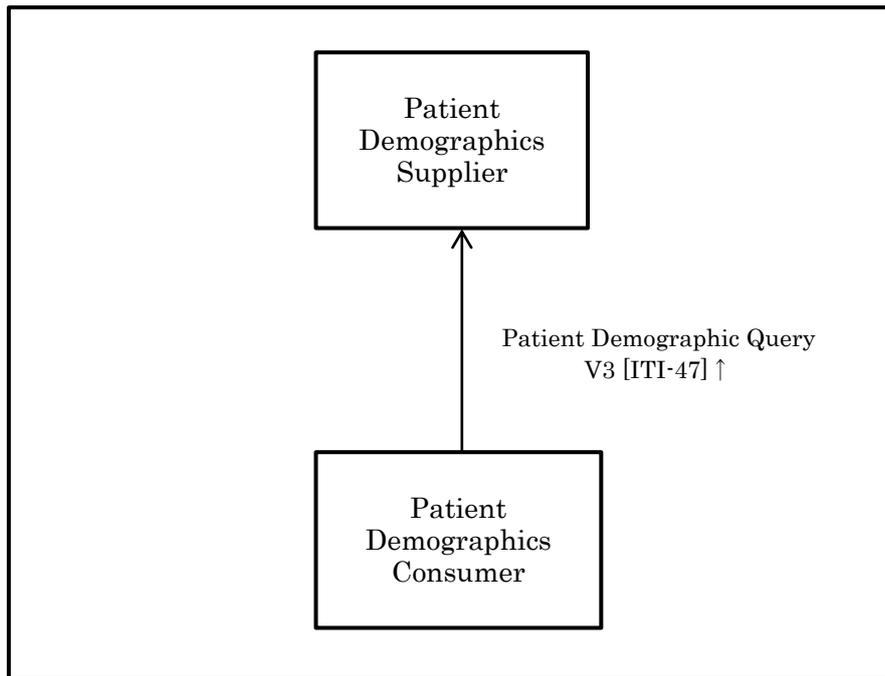


図 11.1 Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3)のアクタおよびトランザクション

表 11.1 は患者基本情報問い合わせ V3 プロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R"表記) が実行できなければならない。"O"表記のトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 24.2 にある。

表 11.1: 患者基本情報問合せ V3—アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Patient Demographics Consumer	Patient Demographics Query HL7 V3	R	ITI TF-2b: 3.47
Patient Demographics Supplier	Patient Demographics Query HL7 V3	R	ITI TF-2b: 3.47

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 10.0

24. Patient Demographics Query HL7 V3 (PDQV3)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2b Rev, 10.0

3.47 Patient Demographics Query HL7 V3

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 10.0

Appendix O HL7 v3 Transmission and Trigger Event Control Act Wrappers

Appendix V Web Services for IHE Transactions

Appendix W Implementation Material

## 12. Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b) : 施設間情報共有

本統合プロファイルは、XDS アフィニティドメインに属する多数の医療機関等が、文書形式の臨床記録を共有することによって、協力して患者の診療等にあたることを可能にする方法を提供する。

XDS.b 統合プロファイルでは、医療施設はひとつ以上の XDS アフィニティドメインに属することを前提にしている。XDS アフィニティドメインとは、共通の基本方針（ポリシー）と共通の基盤上で、協働することを合意した医療機関の集まりである。

このプロファイルのドキュメントリポジトリとドキュメントレジストリは、XDS アフィニティドメイン内の患者についての情報の長期記録を生成する。

このプロファイルは ebXML Registry 標準規格と SOAP 規格に依拠している。文書共有管理のために必要な ebXML Registry の設定法を詳細に記述している

XDS アフィニティドメインでは、共通の基本方針と規則（ポリシー）が定められなければならない。この統合プロファイルでは特定のポリシーを定めない。

任意の XDS アフィニティドメイン内でひとりの患者のドキュメントの長期記録を作成するには、ドキュメントレポジトリとドキュメントレジストリによる管理が必要であり、それぞれに以下の責任を分担する。

- ドキュメントレポジトリは、明確・安全・信頼のおける・永続的なドキュメント保存とドキュメント取得要求への応答に責任がある。
- ドキュメントレジストリは一人の患者の診療に必要なドキュメントが、どこに保存されているかに拘わらず、検索が容易で、選択が可能で、取得できる様にドキュメントの保存に関連する情報を保存する責任がある。

XDS ではドキュメントの概念は文字情報に限定されない。XDS は情報内容に依存せず、内容や表示に関わりなく、いかなる種類の臨床情報も使用可能とする。これにより、XDS 統合プロファイルは、単純テキスト、書式化テキスト（たとえば、HL7 CDA R1）、画像（たとえば、DICOM）、構造化され語彙がコード化された臨床情報（たとえば、CDA R2、CCR、CENENV 13606、DICOM SR）を等しく扱うことができる。ドキュメントソースとドキュメントコンシューマ間で相互運用性を確保するために、XDS アフィニティドメイン内でドキュメントの形式、構造、内容について、基本方針を定めなければならない。

図 12.1 は Cross-Enterprise Document Sharing におけるアクタとトランザクションの関係を説明し

たものである。

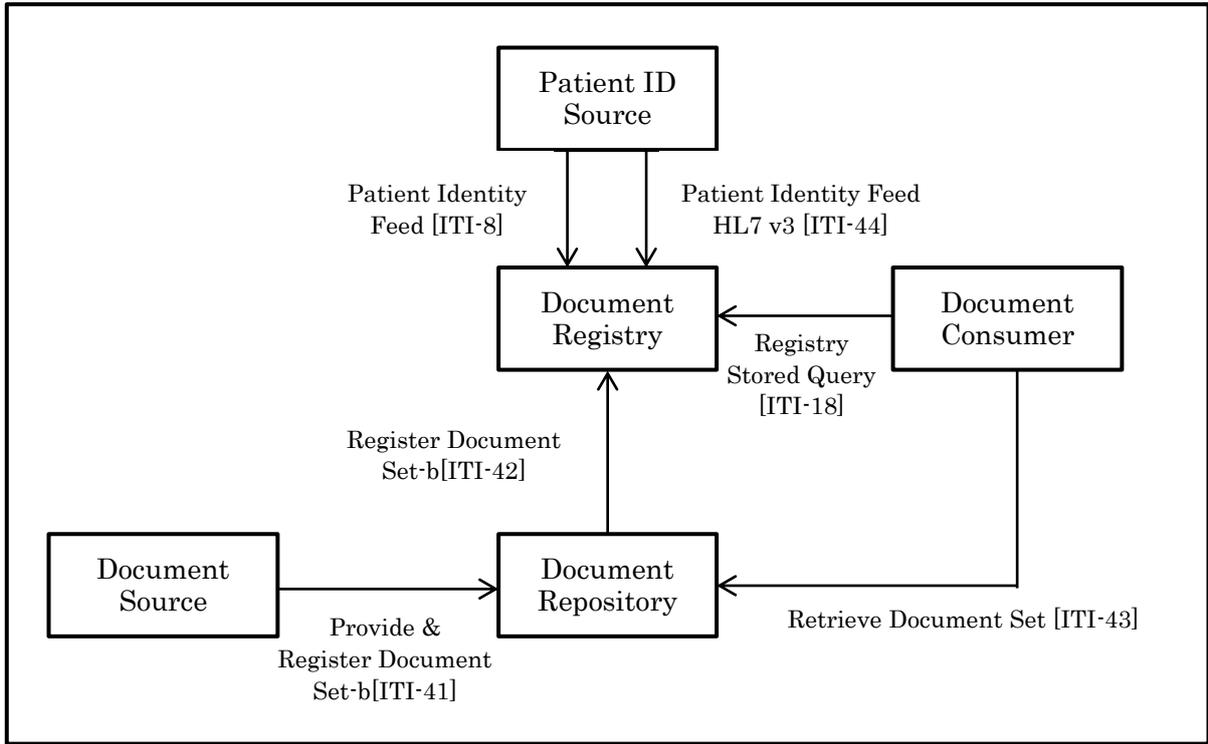


図 12.1 Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b)のアクタおよびトランザクション

表 12.1 は XDS.b プロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R"表記)が実行できなければならない。"O"表記のトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 10.2にある。

表 12.1: XDS.b-アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Document Consumer	Registry Stored Query [ITI-18]	R	ITI TF-2a: 3.18
	Retrieve Document Set [ITI-43]	R	ITI TF-2b: 3.43
Document Source	Provide and Register Document Set-b [ITI-41]	R	ITI TF-2b: 3.41
Document Repository	Provide and Register Document Set-b [ITI-41]	R	ITI TF-2b: 3.41
	Register Document Set-b [ITI-42]	R	ITI TF-2b: 3.42
	Retrieve Document Set [ITI-43]	R	ITI TF-2b: 3.43
Document Registry	Register Document Set-b [ITI-42]	R	ITI TF-2b: 3.42
	Registry Stored Query [ITI-18]	R	ITI TF-2a: 3.18

Actors	Transactions	Optionality	Section
	Patient Identity Feed [ITI-8]	O (Note 2)	ITI TF-2a: 3.8
	Patient Identity Feed HL7v3 [ITI-44]	O (Note 2)	ITI TF-2b: 3.44
Integrated Document Source/Repository	Register Document Set-b [ITI-42]	R	ITI TF-2b: 3.42
	Retrieve Document Set [ITI-43]	R	ITI TF-2b: 3.43
Patient Identity Source	Patient Identity Feed [ITI-8]	O (Note 1,2)	ITI TF-2a: 3.8
	Patient Identity Feed HL7v3 [ITI-44]	O (Note 1,2)	ITI TF-2b :3.44

Note1: 患者 ID の発行機関が Patient Identity Feed、Patient Identity Feed HL7V3 を利用するときは、患者 ID ソースは、患者 ID 発行機関を識別するため、OID を使用しなければならない。

Note2: ドキュメントレジストリと患者 ID ソースは、Patient Identity Feed もしくは Patient Identity Feed HL7V3 の少なくともいずれか一方を実装しなければならない。

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0  
 10. Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0  
 3.8 Patient Identity Feed  
 3.18 Registry Stored Query

IHE-ITI Technical Framework Volume 2b Rev, 9.0  
 3.41 Provide and Register Document Set-b  
 3.42 Register Document Set-b  
 3.43 Retrieve Document Set  
 3.44 Patient Identity Feed HL7 V3

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0  
 Appendix E Usage of the CX Data Type in PID-3-Patient Identifier List  
 Appendix K XDS Security Environment  
 Appendix O HL7 v3 Transmission and Trigger Event Control Act Wrappers  
 Appendix V Web Services for IHE Transactions  
 Appendix W Implementation Material

IHE-ITI Technical Framework Volume 3 Rev, 9.0  
 4 Metadata used in Document Sharing profiles

### 13. Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging (XDS-I.b) : 画像のための施設間情報共有

本統合プロファイルは、施設間で画像情報を共有するための方法を提供する。本統合プロファイルは XDS で定義された用語（例えば、アフィニティドメイン、提出セット、など）の使用を含め、IT インフラ XDS プロファイルに依存しそれを拡張することから、XDS-I の閲覧機能は、XDS プロファイルを閲覧し、理解することが期待される（12. Cross-Enterprise Document Sharing 参照）。XDS-I の仕様では、XDS で定義されたアクタ、ドキュメントレポジトリ、ドキュメントレジストリ、およびドキュメントコンシューマに対する要件並びにテキストを繰り返してはいない。

図 13.1 は Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging におけるアクタとトランザクションの関係性を説明したものである。

本統合プロファイルは、DICOM インスタンス（画像、エビデンス文書、表示状態を含む）と直ちに表示可能な形式の読影レポート等を共有連携するための手段（情報）を規定している。

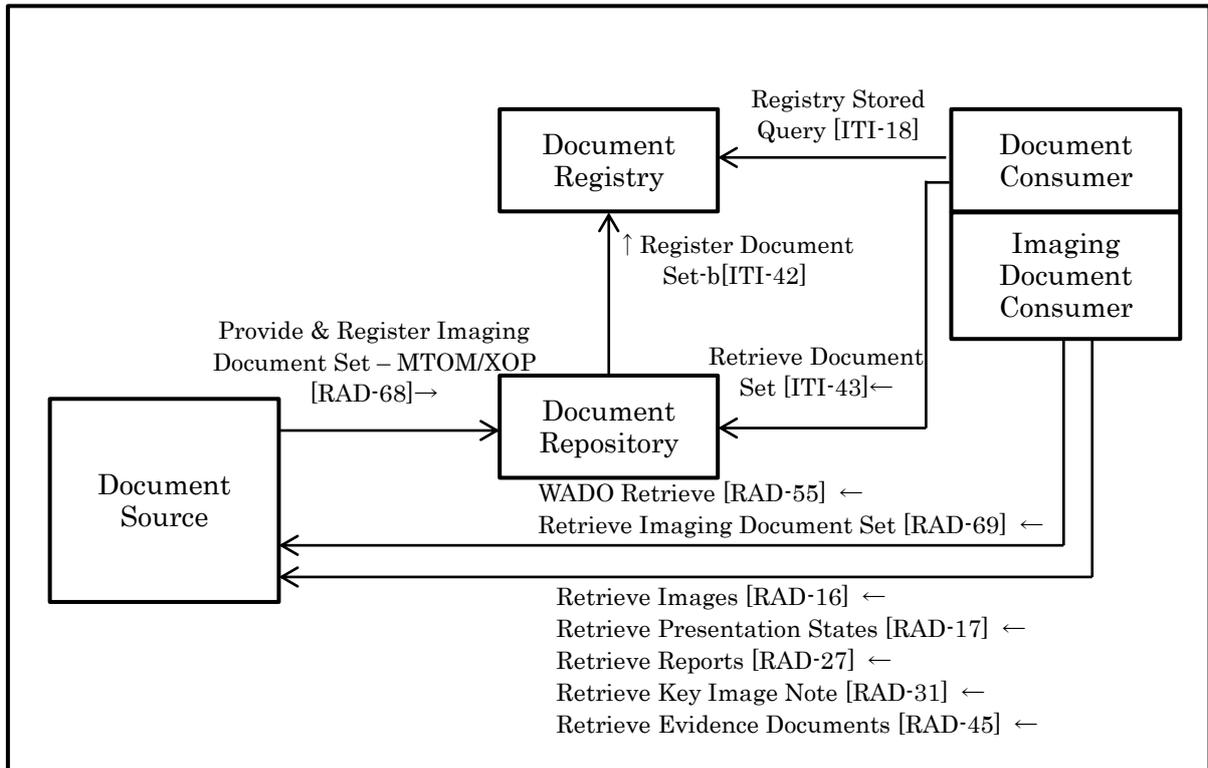


図 13.1 Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging (XDS-I.b) のアクタおよびトランザクション

表 13.1 は XDS-I.b プロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R"表記) が実行できなければならない。"O"表記のトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、RAD TF-1: 18.2 にある。

表 13.1: XDS-I.b-アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section in Vol. 2
Imaging Document Consumer	Retrieve Images [RAD-16]	O (note 1)	4.16
	Retrieve Presentation States [RAD-17]	O	4.17
	Retrieve Reports [RAD-27]	O (note 1)	4.27
	Retrieve Key Image Note [RAD-31]	O	4.31
	Retrieve Evidence Documents [RAD-45]	O (note 1)	4.45
	WADO Retrieve [RAD-55]	O (note 1)	4.55
	Retrieve Imaging Document Set [RAD-69]	O (note 1)	4.69
Imaging Document Source	Provide and Register Imaging Document Set – MTOM/XOP [RAD-68]	R (note 2)	4.68
	Retrieve Images [RAD-16]	R (note 3)	4.16
	Retrieve Presentation States [RAD-17]	R (note 3)	4.17
	Retrieve Reports [RAD-27]	R (note 3)	4.27
	Retrieve Key Image Note [RAD-31],	R (note 3)	4.31
	Retrieve Evidence Documents [RAD-45]	R (note 3)	4.45
	WADO Retrieve [RAD-55]	R (note 3)	4.55
	Retrieve Imaging Document Set [RAD-69]	R (note 3)	4.69

note 1: オプションの取得トランザクションは少なくともひとつは実装しなければならない。

Imaging Document Consumer の追加要求事項については、RAD TF-1: 18.4 を参照のこと。

note 2: RAD TF-1: 18.2 のオプションに記載されている3つのドキュメントタイプのうち少なくともひとつを対応しなければならない。

note 3: Imaging Document Source が RAD TF-1: 18.2 Integration Profile Options の表 18.2-1 に記載されている“DICOM インスタンスのセット”オプションに対応する場合のみ、これらのトランザクションは必須とする。

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-Radiology Technical Framework Volume 1 Rev, 11.0

- 18. Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging (XDS-I.b) Integration Profile
- Appendix E: Nuclear Medicine

IHE-Radiology Technical Framework Volume 2 Rev, 11.0

- 4.16 Retrieve Images
- 4.17 Retrieve Presentation States
- 4.27 Retrieve Reports
- 4.31 Retrieve Key Image Notes

IHE-Radiology Technical Framework Volume 3 Rev, 11.0

- 4.45 Retrieve Evidence Documents
- 4.55 WADO Retrieve
- 4.68 Provide and Register Imaging Document Set – MTOM/XOP
- 4.69 Retrieve Imaging Document Set
- Appendix G Configuration for Accessing DICOM, WADO and Web Services Retrieve Services

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 10.0

- 3.18 Registry Stored Query

IHE-ITI Technical Framework Volume 2b Rev, 10.0

- 3.42 Register Document Set-b
- 3.43 Retrieve Document Set

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 10.0

- Appendix E Usage of the CX Data Type in PID-3-Patient Identifier List
- Appendix K XDS Security Environment
- Appendix O HL7 v3 Transmission and Trigger Event Control Act Wrappers
- Appendix V Web Services for IHE Transactions
- Appendix W Implementation Material

IHE-ITI Technical Framework Volume 3 Rev, 10.0

- 4 Metadata used in Document Sharing profiles

### 14. Cross-Community Access (XCA) : コミュニティ間連携

本統合プロフィールは、ゲートウェイを介し他のコミュニティで保存された患者の臨床記録を照会および取得するための手段を提供する。図 14.1 は Cross-Community Access におけるアクタとトランザクションの関係性を説明したものである。

コミュニティとは、臨床記録を共有する目的のために共通のポリシーにより共同で作業することを合意した施設／機関の集合体として定義される。XDS.b 統合プロフィールおよび XDS-L.b 統合プロフィールにおける XDS アフィニティドメインと同義である。コミュニティは世界規模で一意的識別子である、homeCommunityId で識別できる。あるコミュニティに参加している施設／機関が、別のコミュニティへ参加することを妨げるものではない。このようなコミュニティは、XDS/XDS-I によりドキュメントを共有するアフィニティドメインの場合もあれば、他の形のコミュニティの場合もある。

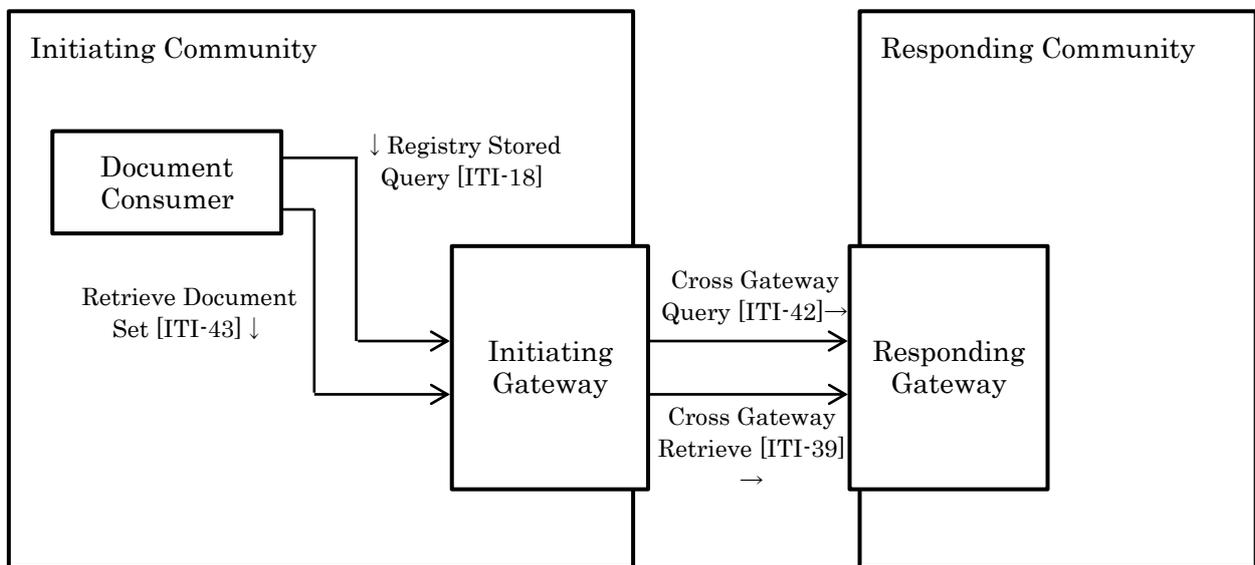


図 14.1 Cross-Community Access (XCA) のアクタおよびトランザクション

表 14.1 は XCA プロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロフィールが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R" 表記) が実行できなければならない。"O" 表記のトランザクションはオプションである。この統合プロフィールで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 18.2 にある。

表 14.1: XCA 統合プロフィール—アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Initiating Gateway	Cross Gateway Query [ITI-38]	R	ITI TF-2b: 3.38
	Cross Gateway Retrieve [ITI-39]	R	ITI TF-2b: 3.39
	Registry Stored Query [ITI-18]	O	ITI TF-2a: 3.18
	Retrieve Document Set [ITI-43]	O	ITI TF-2b: 3.43

Responding Gateway	Cross Gateway Query [ITI-38]	R	ITI TF-2b: 3.38
	Cross Gateway Retrieve [ITI-39]	R	ITI TF-2b: 3.39

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0

18. Cross-Community Access (XCA) Integration Profile

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0

3.18 Registry Stored Query

IHE-ITI Technical Framework Volume 2b Rev, 9.0

3.38 Cross Gateway Query

3.39 Cross Gateway Retrieve

3.43 Retrieve Document Set

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0

Appendix V Web Services for IHE Transactions

Appendix W Implementation Material

IHE-ITI Technical Framework Volume 3 Rev, 9.0

4 Metadata used in Document Sharing profiles

### 15. Consistent Time (CT) : 時刻同期

本統合プロファイルは、複数のアクタとコンピュータとの間の標準時刻を同期させるためのメカニズムを定義する。図 15.1 は Consistent Time におけるアクタとトランザクションの関係を説明したものである。

他の統合プロファイルは、本プロファイルの適用を要求している場合がある。本統合プロファイルでは、同期エラーの中央値を 1 秒未満としている。本統合プロファイルでは、RFC 1305 に定義された Network Time Protocol (NTP) を使用している。

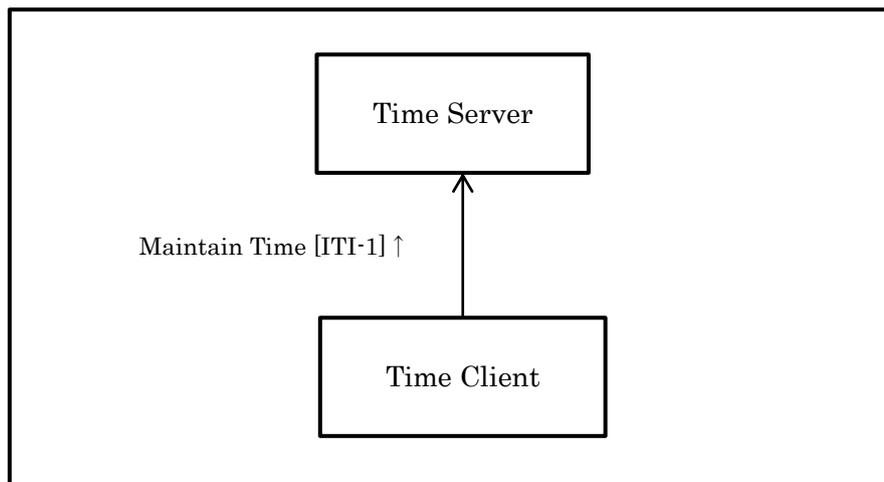


図 15.1 Consistent Time (CT) のアクタおよびトランザクション

表 15.1 は CT プロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R" 表記) が実行できなければならない。"O" 表記のトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 7.2 にある。

表 15.1: 時刻一貫性—アクタとトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section
Time Server	Maintain Time [ITI-1]	R	ITI TF-2a: 3.1
Time Client	Maintain Time [ITI-1]	R	ITI TF-2a: 3.1

本プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0

7. Consistent Time (CT)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0

3.1 Maintain Time

## 16. Audit Trail and Node Authentication (ATNA) : 監査証跡およびノード認証

本統合プロファイルは、基本的なセキュアノードに関する機能について記載している。図 16.1 は Audit Trail and Node Authentication におけるアクタとトランザクションの関係を説明したものである。

ここでいう機能とは、セキュリティ管理担当者のためにノードのセキュリティ環境(ユーザ識別、認証、認可、アクセス管理、など)、ノードに対する基本的な監査要求事項、TLS またはそれと同等以上の機能を使用したノード間通信における最低限のセキュリティ要求事項、セキュアノードと監査情報を収集する監査リポジトリノード間での監査メッセージなどである。

本統合プロファイルの環境はセキュアドメイン (Secure Domain) と考えられ、部門、施設の規模から XDS アフィニティドメインの規模まで適応可能である。

ATNA は、ネットワークを介する利用を拠点間にものみ制限し、それぞれの拠点の利用を権限のある使用者にものみ限定して、利用制限をおこなう。ひとつのセキュアドメイン内のセキュアノード間のネットワーク通信は、そのセキュアドメイン内の他のセキュアノードとの間にものみ制限されている。セキュアノードは認証と利用制限の基本方針にもとづいて権限を付与された使用者のみの利用に限定する。

利用者報告義務は監査証跡により提供される。監査証跡は、施設のセキュリティ担当者が、システムの動作を監査し、セキュアドメインの基本方針に合致するか評価し、違反活動事例を検出し、不適切な情報の生成・利用・変更と削除の検出が容易にできるようにする。

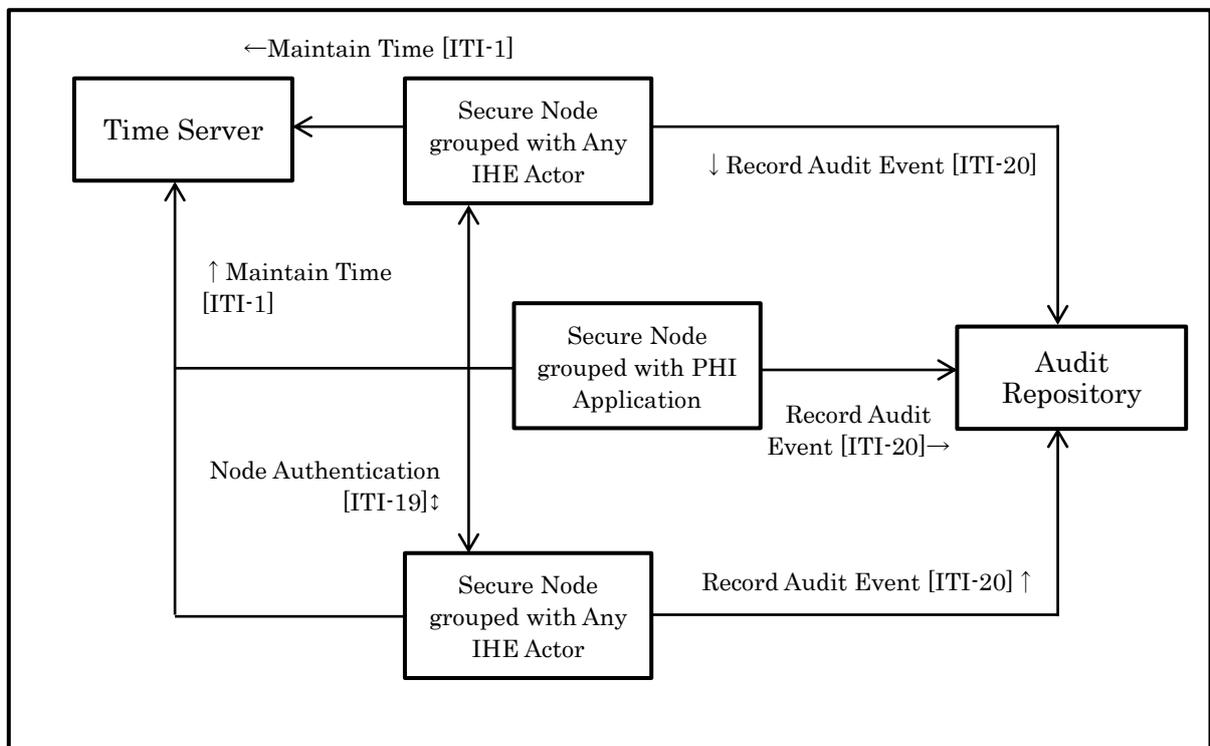


図 16.1 Audit Trail and Node Authentication (ATNA) のアクタおよびトランザクション

表 16.1はATNA プロファイルに直接含まれるアクタのそれぞれに対するトランザクションを示す。この統合プロファイルが使用可能と主張するには、実装品は必須トランザクション ("R"表記) が実行できなければならない。"O"表記のトランザクションはオプションである。この統合プロファイルで定義され、実装品で使用可能にできるオプションの完全な一覧は、ITI TF-1: 9.5にある。

**表 16.1: 監査追跡と拠点認証プロファイル (ATNA) –アクタとトランザクション**

Actor	Transactions	Optionality	Section
Audit Record Repository	Record Audit Event [ITI-20]	R	ITI-2a: 3.20
Secure Node	Authenticate Node [ITI-19]	R	ITI-2a: 3.19
	Record Audit Event [ITI-20]	R	ITI-2a:3.20
	Maintain Time [ITI-1]	R	ITI-2a: 3.1
Secure Application	Authenticate Node [ITI-19]	O	ITI-2a: 3.19
	Maintain Time [ITI-1]	O	ITI-2a: 3.1
	Record Audit Event [ITI-20]	O	ITI-2a: 3.20

本統合プロファイルの詳細については、以下を参照のこと。

IHE-ITI Technical Framework Volume 1 Rev, 9.0  
9. Audit Trail and Node Authentication (ATNA)

IHE-ITI Technical Framework Volume 2a Rev, 9.0  
3.1 Maintain Time  
3.19 Authenticate Node  
3.20 Record Audit Event

IHE-ITI Technical Framework Volume 2x Rev, 9.0  
Appendix F: Character String Comparisons

## 17. 日本国内拡張

日本国内における諸規定、各ガイドラインならびに各種規格に則り、日本国内に限り本仕様の一部を本章の規定の様に拡張する。

### 17.1. Record Audit Event [ITI-20]の日本国内拡張

本章で提示する監査ログメッセージの定義にある「Opt」項目の表記と意味は以下のとおりである。

- M: 必須
- U: オプション
- NA: 使用しない

#### 17.1.1. Patient Identifier Cross-referencing (PIX)の監査ログ

##### 17.1.1.1. Patient Identity Feed [ITI-8]および Patient Identity Management [ITI-30]

###### 17.1.1.1.1. Patient Identity Source アクタの監査ログメッセージ

Patient Identity Source が、Patient Identity Feed [ITI-8]および Patient Identity Management [ITI-30]を実行した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.1.1 のように拡張する。

表 17.1.1.1.1 Patient Identity Source アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	ITI-8 の場合 : EV("ITI-8", "IHE Transactions", "Patient Identity Feed") ITI-30 の場合 : EV("ITI-30", "IHE Transactions", "Patient Identity Management")
Source (Patient Identity Source Actor) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Manager or Document Registry) (1)			
Audit Source (Patient Identity Source Actor) (1)			
Patient (1)			

Where:

<b>Source</b>  <i>AuditMessage/</i>  <b>ActiveParticipant</b>	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  <i>AuditMessage/</i>  <b>ActiveParticipant</b>	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	<i>AlternativeUserID</i>	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	イベントを実行するときのデータを操作した人またはプロセスの役割。
	<i>NetworkAccessPointTypeCode</i>	NA	
	<i>NetworkAccessPointID</i>	NA	

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/  AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, "Patient Number")
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージ コンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.1.1.2. Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Manager もしくは Document Registry アクタが、Patient Identity Feed [ITI-8]および Patient Identity Management [ITI-30]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.1.2 のように拡張する。

表 17.1.1.1.2 Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/  EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	ITI-8 の場合 : EV("ITI-8", "IHE Transactions", "Patient Identity Feed")  ITI-30 の場合 : EV("ITI-30", "IHE Transactions", "Patient Identity Management")
Source (Patient Identity Source Actor) (1)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Manager or Document Registry) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Manager or Document Registry) (1)			
Patient(1)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。  両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。  EV( TRUE )

地域医療連携における情報連携基盤 技術仕様

	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “Source Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, "Patient Number")
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージ コンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.1.2. PIX Query [ITI-9]

17.1.1.2.1. Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタが、PIX Query [ITI-9]を実施した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.2.1 のように拡張する。

表 17.1.1.2.1 Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110117, IHEJ, “PIX Query”)
	EventActionCode	M	“E” (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-9”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
Source (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Audit Source (Patient Identity Cross-reference Consumer) (1)			
Patient (0..n)			
Query Parameters(1)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”

	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	関係しており認識されている他の関係者の ID。特に要求者である人あるいはプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	他の関係者の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	他の関係者の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	他の関係者が本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	U	他の関係者の役割。 RFC3881 の規定に従う。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。 以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源のユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(“ITI-9”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	M	base64 で符号化された検索内容 (MSH と QPD セグメントを含む)。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージコンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.1.2.2. Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Manager アクタが、PIX Query [ITI-9]を実施した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.2.2 のように拡張する。

表 17.1.1.2.2 Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110117, IHEJ, “PIX Query”)
	EventActionCode	M	“E” (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-9”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Patient (0..n)			
Query Parameters(1)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(“ITI-9”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
	<i>ParticipantObjectID</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectQuery	M	base64 で符号化された検索内容 (MSH と QPD セグメントを含む)。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならぬ。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージコンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.1.3. PIX Update Notification [ITI-10]

17.1.1.3.1. Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Manager アクタが、PIX Update Notification [ITI-10]を実行した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.3.1 のように拡張する。

表 17.1.1.3.1 Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-10", "IHE Transactions", "PIX Update Notification")
Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Patient(1..n)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")

	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	イベントを実行するときのデータを操作した人またはプロセスの役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源システムのユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(1) (人)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージコンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)	

17.1.1.3.2. Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタが、PIX Update Notification [ITI-10]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.3.2 のように拡張する。

表 17.1.1.3.2 Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  <i>AuditMessage/</i> <b>EventIdentification</b>	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	<i>EventDateTime</i>	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-10", "IHE Transactions", "PIX Update Notification")
Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Patient(1..n)			

Where:

<b>Source</b>  <i>AuditMessage/</i> <b>ActiveParticipant</b>	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、"1" IP アドレスの場合、"2"

	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
--	----------------------	---	--

<b>Destination</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(FALSE)
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b> AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantTypeIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, "Patient Number")
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	ParticipantObjectDetail	M	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージ コンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.2. Patient Identifier Cross-Reference HL7 V3 (PIXV3)の監査ログ

17.1.2.1. Patient Identity Feed HL7 V3 [ITI-44]

17.1.2.1.1. Patient Identity Source アクタの監査ログメッセージ

Patient Identity Source が、Patient Identity Feed HL7 V3 [ITI-44]を実行した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.2.1.1 のように拡張する。

表 17.1.2.1.1 Patient Identifier Cross-reference Source アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/  EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-44", "IHE Transactions", "Patient Identity Feed")
Source (Patient Identity Source Actor) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Manager or Document Registry) (1)			
Audit Source (Patient Identity Source Actor) (1)			
Patient (1)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )

	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “Source Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  <i>AuditMessage/ActiveParticipant</i>	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	イベントを実行するときのデータを操作した人またはプロセスの役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/  AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentifi cation)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, "Patient Number")
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=II (リテラル文字列), Value= message.id の値

17.1.2.1.2. Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Manager もしくは Document Registry アクタが、Patient Identity Feed HL7 V3 [ITI-44]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.2.1.2 のように拡張する。

表 17.1.2.1.2 Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-44", "IHE Transactions", "Patient Identity Feed")
Source (Patient Identity Source Actor) (1)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Manager or Document Registry) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Manager or Document Registry) (1)			
Patient(1)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 "1" IP アドレスの場合、 "2"

	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
--	----------------------	---	--

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。 両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/  AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentifi- cation)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, "Patient Number")
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=II (リテラル文字列), Value= message.id の値

17.1.2.2. PIXV3 Query [ITI-45]

17.1.2.2.1. Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタが、PIXV3 Query [ITI-45]を実施した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.2.2.1 のように拡張する。

表 17.1.2.2.1 Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  (AuditMessage/ EventIdentification)	EventID	M	EV(110117, IHEJ, "PIX Query")
	EventActionCode	M	"E" (実行)
	<i>EventDateTime</i>	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-45", "IHE Transactions", "PIX Query")
Source (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Audit Source (Patient Identity Cross-reference Consumer) (1)			
Patient (0..n)			

Query Parameters(1)

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	関係しており認識されている他の関係者の ID。特に要求者である人あるいはプロセスの ID。
	<i>AlternativeUserID</i>	U	他の関係者の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	他の関係者の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	他の関係者が本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	U	他の関係者の役割。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>NetworkAccessPointTypeCode</i>	NA	
	<i>NetworkAccessPointID</i>	NA	

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。 以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(24) (query)
	ParticipantObjectDataLifeCycle	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(“ITI-45”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
	ParticipantObjectSensitivity	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectSensitivity	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。

	<i>ParticipantObjectName</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	<i>M</i>	base64 で符号化された検索内容。本内容は本装置開発ベンダにて 内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの詳細情報。 RFC3881 の規定に従う。

17.1.2.2.2. Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Manager アクタが、PIXV3 Query [ITI-45]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.2.2.2 のように拡張する。

表 17.1.2.2.2 Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  <i>AuditMessage/</i> <i>EventIdentification</i>	EventID	<i>M</i>	EV(110117, IHEJ, “PIX Query”)
	EventActionCode	<i>M</i>	“E” (実行)
	<i>EventDateTime</i>	<i>M</i>	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	<i>M</i>	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventActionCode	<i>M</i>	EV(“ITI-45”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Patient (0..n)			
Query Parameters(1)			

Where:

<b>Source</b>  <i>AuditMessage/</i> <i>ActiveParticipant</i>	UserID	<i>M</i>	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	<i>U</i>	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	<i>U</i>	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。

	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(“ITI-45”, “IHE Transactions”, “PIX Query”)
	<i>ParticipantObjectID</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectQuery	M	base64 で符号化された検索内容。本内容は本装置開発ベンダにて 内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの詳細情報。 RFC3881 の規定に従う。

17.1.2.3. PIXV3 Update Notification [ITI-46]

17.1.2.3.1. Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Manager アクタが、PIXV3 Update Notification [ITI-46]を実行した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.2.3.1のように拡張する。

表 17.1.2.3.1 Patient Identifier Cross-reference Manager アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-46", "IHE Transactions", "PIX Update Notification")
Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Patient(1..n)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")

	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	イベントを実行するときのデータを操作した人またはプロセスの役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源システムのユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(1) (人)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名称。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=II (リテラル文字列), Value= message.id の値

17.1.2.3.2. Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタが、PIXV3 Update Notification [ITI-46]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.1.3.2 のように拡張する。

表 17.1.2.3.2 Patient Identifier Cross-reference Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV(110110, DCM, "Patient Record")
	EventActionCode	M	"C" (作成) "R" (読み取り) "U" (更新) "D" (削除)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-46", "IHE Transactions", "PIX Update Notification")
Source (Patient Identifier Cross-reference Manager) (1)			
Destination (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Audit Source (Patient Identifier Cross-reference Consumer) (1)			
Patient(1..n)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	U	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、"1" IP アドレスの場合、"2"

	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
--	----------------------	---	--

<b>Destination</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	データを操作した人またはプロセスの ID。両方ともわかっている場合は、人とプロセスの両方を含める。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(FALSE)
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b> AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, "Patient Number")
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	ParticipantObjectDetail	M	Type=II (リテラル文字列), Value= message.id の値

17.1.3. Patient demographics Query (PDQ)の監査ログ

17.1.3.1. Patient Demographics Query [ITI-21]

17.1.3.1.1. Patient Demographics Consumer アクタの監査ログメッセージ

Patient Demographics Consumer アクタが、Patient Demographics Query [ITI-21]を実施した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.3.1.1 のように拡張する。

表 17.1.3.1.1 Patient Demographics Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/  EventIdentification	EventID	M	EV(110118, IHEJ, “PDQ Query”)
	EventActionCode	M	“E” (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-21”, “IHE Transactions”, “Patient Demographics Query”)
<b>Source (Patient Demographics Consumer) (1)</b>			
<b>Human Requestor (0..n)</b>			
<b>Destination (Patient Demographics Supplier) (1)</b>			
<b>Audit Source (Patient Demographics Consumer) (1)</b>			
<b>Patient (0..n)</b>			
<b>Query Parameters(1)</b>			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, “Source Role ID”)

	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	関係しており認識されている他の関係者の ID。特に要求者である人あるいはプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	他の関係者の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	他の関係者の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	他の関係者が本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	U	他の関係者の役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV (110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b> AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源の場所。AuditSourceID を修飾するために使う。

	<i>AuditSourceTypeCode</i>	<i>U</i>	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。
--	----------------------------	----------	-----------------------------

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	<i>M</i>	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	<i>M</i>	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectIDType</i>	<i>M</i>	EV(“ITI-21”, “IHE Transactions”, “Patient Demographics Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	<i>U</i>	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	<i>M</i>	base64 で符号化された検索内容 (MSH と QPD セグメントを含む)。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	<i>M</i>	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージコンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.3.1.2. Patient Demographics Supplier アクタの監査ログメッセージ

Patient Demographics Supplier アクタが、Patient Demographics Query [ITI-21]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.3.1.2 のように拡張する。

表 17.1.3.1.2 Patient Demographics Supplier アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV (110118, IHEJ, "PDQ Query")
	EventActionCode	M	"E" (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-21", "IHE Transactions", "Patient Demographics Query")
<b>Source (Patient Demographics Consumer) (1)</b>			
<b>Destination (Patient Demographics Supplier) (1)</b>			
<b>Audit Source (Patient Demographics Supplier) (1)</b>			
<b>Patient (0..n)</b>			
<b>Query Parameters(1)</b>			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 "1" IP アドレスの場合、 "2"
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV (110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源の場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(“ITI-21”, “IHE Transactions”, “Patient Demographics Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	U	関係者オブジェクトのインスタンスの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectQuery	M	base64 で符号化された検索内容 (MSH と QPD セグメントを含む)。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	Type=MSH-10 (リテラル文字列), Value=MSH-10 の値 (メッセージコンテンツの内容を base64 でエンコードしたもの)

17.1.4. Patient Demographic Query HL7 V3 (PDQV3)の監査ログ

17.1.4.1. Patient Demographics Query HL7 V3 [ITI-47]

17.1.4.1.1. Patient Demographics Consumer アクタの監査ログメッセージ

Patient Demographics Consumer アクタが、Patient Demographics Query HL7 V3 [ITI-47]を実施した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.4.1.1のように拡張する。

表 17.1.4.1.1 Patient Demographics Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/  EventIdentification	EventID	M	EV(110118, IHEJ, “PDQ Query”)
	EventActionCode	M	“E” (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-47”, “IHE Transactions”, “Patient Demographics Query”)
<b>Source (Patient Demographics Consumer) (1)</b>			
<b>Human Requestor (0..n)</b>			
<b>Destination (Patient Demographics Supplier) (1)</b>			
<b>Audit Source (Patient Demographics Consumer) (1)</b>			
<b>Patient (0..n)</b>			
<b>Query Parameters(1)</b>			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, “Source Role ID”)

	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	関係しており認識されている他の関係者の ID。特に要求者である人あるいはプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	他の関係者の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	他の関係者の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	他の関係者が本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	U	他の関係者の役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV (110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b> AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源の場所。AuditSourceID を修飾するために使う。

	<i>AuditSourceTypeCode</i>	<i>U</i>	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。
--	----------------------------	----------	-----------------------------

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	<i>M</i>	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	<i>M</i>	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectIDType</i>	<i>M</i>	EV(“ITI-47”, “IHE Transactions”, “Patient Demographics Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	<i>U</i>	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	<i>M</i>	base64 で符号化された検索内容。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	<i>U</i>	関係者オブジェクトのインスタンスの詳細情報。 RFC3881 の規定に従う。

17.1.4.1.2. Patient Demographics Supplier アクタの監査ログメッセージ

Patient Demographics Supplier アクタが、Patient Demographics Query HL7 V3 [ITI-47]を受信した際の、個人情報へのアクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.4.1.2 のように拡張する。

表 17.1.4.1.2 Patient Demographics Supplier アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV (110118, IHEI, "PDQ Query")
	EventActionCode	M	"E" (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV("ITI-47", "IHE Transactions", "Patient Demographics Query")
<b>Source (Patient Demographics Consumer) (1)</b>			
<b>Destination (Patient Demographics Supplier) (1)</b>			
<b>Audit Source (Patient Demographics Supplier) (1)</b>			
<b>Patient (0..n)</b>			
<b>Query Parameters(1)</b>			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 "1" IP アドレスの場合、 "2"
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。
	AlternativeUserID	M	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV (110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源の場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(“ITI-47”, “IHE Transactions”, “Patient Demographics Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	U	関係者オブジェクトのインスタンスの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectQuery	M	base64 で符号化された検索内容。本内容は本装置開発ベンダにて 内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの詳細情報。 RFC3881 の規定に従う。

### 17.1.5. Cross-Enterprise Document Sharing (XDS.b)の監査ログ

#### 17.1.5.1. Registry Stored Query [ITI-18]

##### 17.1.5.1.1. Document Consumer アクタの監査ログメッセージ

Document Consumer アクタが、Registry Stored Query [ITI-18]を実施した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.1.1 のように拡張する。

表 17.1.5.1.1 Document Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV (110119, IHEJ, “XDS Query”)
	EventActionCode	M	“E” (実行)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-18”, “IHE Transactions”, “Registry Stored Query”)
<b>Source (Document Consumer) (1)</b>			
<b>Human Requestor (0..n)</b>			
<b>Destination (Document Registry) (1)</b>			
<b>Audit Source (Document Consumer) (1)</b>			
<b>Patient (0..1)</b>			
<b>Query Parameters(1)</b>			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。 <wsa:ReplyTo/> エレメントの内容。
	AlternativeUserID	M	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV(TRUE)
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, “Source Role ID”)

	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	関係しており認識されている他の関係者の ID。特に要求者である人あるいはプロセスの ID。
	AlternativeUserID	U	他の関係者の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	他の関係者の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	他の関係者が本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	U	他の関係者の役割。 RFC3881 の規定に従う。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。 SOAP のエンドポイント URI
	AlternativeUserID	U	検索に応答するプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索に応答するプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV (110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源のユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源の場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源のタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectType</i>	M	EV(“ITI-18”, “IHE Transactions”, “Registry Stored Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	Stored Query ID (UUID)
	<i>ParticipantObjectName</i>	C	<ihe:HomeCommunityId/>の値がわかればセットする。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	M	base64 で符号化された検索内容 (AdhocQueryRequest)。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	C	The ParticipantObjectDetail にはひとつ以上のエレメントをセットする。 最初のエレメント : type に “QueryEncoding” をセットし、value に ParticipantObjectQuery の base64 でエンコードする前の文字コード (例 : UTF-8) をセットする。 他のエレメント : type に “urn:ihe:iti:xca:2010:homeCommunityId” をセットし、value に homeCommunityID の値をセットする。ただし、知っている場合のみ。

17.1.5.1.2. Document Registry アクタの監査ログメッセージ

Document Registry アクタが、Registry Stored Query [ITI-18]を受信した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.1.2 のように拡張する。

表 17.1.5.1.2 Document Registry アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV (110119, IHEJ, “XDS Query”)
	EventActionCode	M	“E” (実行)
	<i>EventDateTime</i>	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-18”, “IHE Transactions”, “Registry Stored Query”)
<b>Source (Document Consumer) (1)</b>			
<b>Destination (Document Registry) (1)</b>			
<b>Audit Source (Document Registry) (1)</b>			
<b>Patient (0..1)</b>			
<b>Query Parameters(1)</b>			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。 <wsa:ReplyTo/> エレメントの内容。
	AlternativeUserID	U	検索を発行したプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	検索を発行したプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。 RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	検索に応答するプロセスの ID。  SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	M	検索に応答するプロセスの別の ID。  RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	検索に応答するプロセスの名前。  RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	検索を発行したプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。  RFC3881 の規定に従う。
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1”  IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/  AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源のユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源の場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源のタイプ。  RFC3881 の規定に従う。

<b>Query Parameters</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(24) (query)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(“ITI-18”, “IHE Transactions”, “Registry Stored Query”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	Stored Query ID (UUID)
	<i>ParticipantObjectName</i>	C	<ihe:HomeCommunityId/>の値がわかればセットする。
	ParticipantObjectQuery	M	base64 で符号化された検索内容 (AdhocQueryRequest)。本内容は本装置開発ベンダにて内容が分析できなければならない。
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	C	The ParticipantObjectDetail にはひとつ以上のエレメントをセットする。 最初のエレメント：type に “QueryEncoding”をセットし、value に ParticipantObjectQuery の base64 でエンコードする前の文字コード (例：UTF-8) をセットする。 他のエレメント：type に“urn:ihe:iti:xca:2010:homeCommunityId”をセットし、value に homeCommunityID の値をセットする。ただし、知っている場合のみ。

17.1.5.2. Provide and Register Document Set-b [ITI-41]

17.1.5.2.1. Document Source アクタの監査ログメッセージ

Document Source アクタが、Provide and Register Document Set-b [ITI-41]を実施した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.2.1 のように拡張する。

表 17.1.5.2.1 Document Source アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  <b>AuditMessage/</b> <b>EventIdentification</b>	EventID	M	EV (110115,IHEJ, “IHE Export”)
	EventActionCode	M	“R” (読み取り)
	<i>EventDateTime</i>	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-41”, “IHE Transactions”, “Provide and Register Document Set-b”)
Source (Document Source) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Document Repository) (1)			
Audit Source (Document Source) (1)			
Patient (1)			
SubmissionSet (1)			

Where:

<b>Source</b>  <b>AuditMessage/</b> <b>ActiveParticipant</b>	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。 <wsa:ReplyTo/> エレメントの内容。
	AlternativeUserID	M	データを操作した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	データを操作した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データを操作した人またはプロセスが本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, “Source Role ID”)

	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  <b>AuditMessage/ ActiveParticipant</b>	UserID	M	トランザクションを発行した人の ID。
	AlternativeUserID	U	トランザクションを発行した人の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	トランザクションを発行した人の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	トランザクションを発行した人が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	イベントを実行するときのデータを操作した人の役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b>  <b>AuditMessage/ ActiveParticipant</b>	UserID	M	データの出力先の ID。 SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	U	データの出力先の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データの出力先の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの出力先が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源システムのユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(1) (人)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectIDTypeCode</i>	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	not specialized
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの詳細情報。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Submission Set</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(20) (job)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectIDTypeCode</i>	M	EV(“urn:uuid:a54d6aa5-d40d-43f9-88c5-b4633d873bdd”, “IHE XDS Metadata”, “submission set classificationNode”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	submissionSet の unique ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	not specialized
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	not specialized
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	not specialized

17.1.5.2.2. Document Repository アクタの監査ログメッセージ

Document Repository アクタが、Provide and Register Document Set-b [ITI-41]を受信した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.2.2 のように拡張する。

表 17.1.5.2.2 Document Repository アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  <b>AuditMessage/</b> <b>EventIdentification</b>	EventID	M	EV (110116, IHEJ, “IHE Import”)
	EventActionCode	M	“C” (作成)
	<i>EventDateTime</i>	<i>M</i>	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	<i>M</i>	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-41”, “IHE Transactions”, “Provide and Register Document Set-b”)
Source (Document Source) (1)			
Destination (Document Repository or Document Recipient) (1)			
Audit Source (Document Repository or Document Recipient) (1)			
Patient (1)			
SubmissionSet (1)			

Where:

<b>Source</b>  <b>AuditMessage/</b> <b>ActiveParticipant</b>	UserID	M	検索を発行したプロセスの ID。 <wsa:ReplyTo/> エレメントの内容。
	AlternativeUserID	<i>U</i>	データの入力元の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	<i>U</i>	データの入力元の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV (110153, DCM, “Source Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データの出力先の ID。 SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	M	データを入力した人またはプロセスの別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データを入力した人またはプロセスの名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/  AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdent ification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	ParticipantObjectQuery	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	<i>not specialized</i>
<b>Submission Set</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdent ification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(20) (job)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(“urn:uuid:a54d6aa5-d40d-43f9-88c5-b4633d873bdd”, “IHE XDS Metadata”, “submission set classificationNode”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	submissionSet の unique ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	<i>not specialized</i>

17.1.5.3. Register Document Set-b [ITI-42]

17.1.5.3.1. Document Source アクタの監査ログメッセージ

Document Repository アクタが、Register Document Set-b [ITI-42]を実施した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.3.1 のように拡張する。

表 17.1.5.3.1 Document Repository アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/  EventIdentification	EventID	M	EV (110115, IHEJ, “IHE Export”)
	EventActionCode	M	“R” (読み取り)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-42”, “IHE Transactions”, “Register Document Set-b”)
Source (Document Repository or Integrated Document Source/Repository) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Destination (Document Registry) (1)			
Audit Source (Document Repository or Integrated Document Source/Repository) (1)			
Patient (1)			
SubmissionSet (1)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	U	データの入力元の ID。 WS-Addressing を使用している場合 : <ReplyTo/>の値。
	AlternativeUserID	M	データの入力元の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データの入力元の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの入力元が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 “1” IP アドレスの場合、 “2”

	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。
<b>Human Requestor (if known)</b>  <b>AuditMessage/ ActiveParticipant</b>	UserID	M	トランザクションを発行した人の ID。
	AlternativeUserID	U	トランザクションを発行した人の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	トランザクションを発行した人の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	トランザクションを発行した人が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	イベントを実行するときのデータを操作した人の役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Destination</b>  <b>AuditMessage/ ActiveParticipant</b>	UserID	M	データの出力先の ID。 SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	U	データの出力先の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データの出力先の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの出力先が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源システムのユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(1) (人)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectIDTypeCode</i>	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	not specialized
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	not specialized RFC3881 の規定に従う。

<b>Submission Set</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(20) (job)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectIDTypeCode</i>	M	EV(“urn:uuid:a54d6aa5-d40d-43f9-88c5-b4633d873bdd”, “IHE XDS Metadata”, “submission set classificationNode”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	submissionSet の unique ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	not specialized
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	not specialized
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	not specialized

17.1.5.3.2. Document Registry アクタの監査ログメッセージ

Document Registry アクタが、Register Document Set-b [ITI-42]を受信した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.3.2 のように拡張する。

表 17.1.5.3.2 Document Registry アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  <b>AuditMessage/</b> <b>EventIdentification</b>	EventID	M	EV (110116, IHEJ, “IHE Import”)
	EventActionCode	M	“C” (作成)
	<i>EventDateTime</i>	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>EventOutcomeIndicator</i>	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-42”, “IHE Transactions”, “Register Document Set-b”)
Source (Document Repository or Integrated Document Source/Repository) (1)			
Destination (Document Registry ) (1)			
Audit Source (Document Registry) (1)			
Patient (1)			
SubmissionSet (1)			

Where:

<b>Source</b>  <b>AuditMessage/</b> <b>ActiveParticipant</b>	UserID	U	データの入力元の ID。 WS-Addressing を使用している場合 : <ReplyTo/>の値。
	AlternativeUserID	U	データの入力元の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	U	データの入力元の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの入力元が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, “ Source Role ID ”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 “1” IP アドレスの場合、 “2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス) 。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データの出力先の ID。 SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	M	データの出力先の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	データの出力先の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの出力先が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, “Destination Role ID”)
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/  AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceID を修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdent ification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(1) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(1) (患者)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	<i>not specialized</i> RFC3881 の規定に従う。
<b>Submission Set</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdent ification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(20) (job)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(“urn:uuid:a54d6aa5-d40d-43f9-88c5-b4633d873bdd”, “IHE XDS Metadata”, “submission set classificationNode”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	submissionSet の unique ID
	<i>ParticipantObjectName</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
	<i>ParticipantObjectDetail</i>	U	<i>not specialized</i>

17.1.5.4. Retrieve Document Set [ITI-43]

17.1.5.4.1. Document Consumer アクタの監査ログメッセージ

Document Consumer アクタが、Retrieve Document Set [ITI-43]を実施した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.4.1 のように拡張する。

表 17.1.5.4.1 Document Consumer アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV (110116, IHEJ, “IHE Import”)
	EventActionCode	M	“C” (作成)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-43”, “IHE Transactions”, “Retrieve Document Set”)
Source (Document Repository) (1)			
Destination (Document Consumer) (1)			
Human Requestor (0..n)			
Audit Source (Document Consumer) (1)			
Patient (0..1)			
Document (1..n) (see combining rules above)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	トランザクションの発行元の ID。 SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	U	トランザクションの発行元の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	トランザクションの発行元の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	トランザクションの発行元が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データの出力先の ID。 <wsa:ReplyTo/> の内容。
	AlternativeUserID	M	データの出力先の ID。 <wsa:ReplyTo/> の内容。
	UserName	U	データの出力先の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの出力先が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、“1” IP アドレスの場合、“2”
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Human Requestor (if known)</b> AuditMessage/ ActiveParticipant	UserID	M	トランザクションを発行した人の ID。
	AlternativeUserID	U	トランザクションを発行した人の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	UserName	U	トランザクションを発行した人の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	トランザクションを発行した人が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	U	トランザクションを発行した人の役割。
	NetworkAccessPointTypeCode	NA	
	NetworkAccessPointID	NA	

<b>Audit Source</b> AuditMessage/ AuditSourceIdentification	AuditSourceID	M	発生源システムのユニークな ID。
	AuditEnterpriseSiteID	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	AuditSourceTypeCode	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Patient (if-known)</b> (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	ParticipantObjectTypeCode	M	EV( 1 ) (人)
	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV( 1 ) (患者)
	ParticipantObjectDataLifeCycle	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(2, RFC-3881, “Patient Number”)
	ParticipantObjectSensitivity	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	HL7 CX 型書式による患者 ID
	ParticipantObjectName	U	関係者オブジェクトのインスタンスの名前。 患者名が入る。
	ParticipantObjectQuery	U	not specialized
	ParticipantObjectDetail	U	not specialized
<b>Document</b>	ParticipantObjectTypeCode	M	EV(2) (システム)

	ParticipantObjectTypeCodeRole	M	EV(3) (レポート)
	ParticipantObjectDataLifeCycle	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectIDTypeCode	M	EV(9, RFC-3881, “Report Number”)
	ParticipantObjectSensitivity	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	ParticipantObjectID	M	<ihe:DocumentUniqueId/>の値
	ParticipantObjectName	C	not specialized
	ParticipantObjectQuery	U	not specialized
	ParticipantObjectDetail	M	The ParticipantObjectDetail にはひとつ以上のエレメントをセットする。 最初のエレメント: type に “Repository Unique Id”をセットし、value に<ihe:RepositoryUniqueId/>の値をセットする。 他のエレメント: type に“ihe:homeCommunityID”をセットし、value に homeCommunityID の値をセットする。

17.1.5.4.2. Document Repository アクタの監査ログメッセージ

Document Repository アクタが、Retrieve Document Set [ITI-43]を受信した際の、アクセスイベントを記録するための監査ログメッセージを表 17.1.5.4.2 のように拡張する。

表 17.1.5.4.2 Document Repository アクタの監査ログメッセージ

	Field Name	Opt	Value Constraints
<b>Event</b>  AuditMessage/ EventIdentification	EventID	M	EV (110115, IHEJ, “IHE Export”)
	EventActionCode	M	“R” (読み取り)
	EventDateTime	M	イベントが発生した時刻。 RFC3881 の規定に従う。
	EventOutcomeIndicator	M	イベントの成功、失敗を示す。 RFC3881 の規定に従う。
	EventTypeCode	M	EV(“ITI-43”, “IHE Transactions”, “Retrieve Document Set”)
Source (Document Repository) (1)			
Destination (Document Consumer) (1)			
Audit Source (Document Repository) (1)			
Document (1..n) (see combining rules above)			

Where:

<b>Source</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	トランザクションの発行元の ID。 SOAP のエンドポイント URI。
	AlternativeUserID	M	トランザクションの発行元の別の ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>UserName</i>	<i>U</i>	トランザクションの発行元の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	トランザクションの発行元が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( FALSE )
	RoleIDCode	M	EV(110153, DCM, "Source Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 "1" IP アドレスの場合、 "2"
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Destination</b>  AuditMessage/  ActiveParticipant	UserID	M	データの出力先の ID。 <wsa:ReplyTo/> の内容。
	<i>AlternativeUserID</i>	<i>U</i>	データの出力先の ID。 <wsa:ReplyTo/> の内容。
	<i>UserName</i>	<i>U</i>	データの出力先の名前。 RFC3881 の規定に従う。
	UserIsRequestor	M	データの出力先が本イベントの要求者か否かを示す。以下の値が入る。 EV( TRUE )
	RoleIDCode	M	EV(110152, DCM, "Destination Role ID")
	NetworkAccessPointTypeCode	M	マシン(DNS)ネームの場合、 "1" IP アドレスの場合、 "2"
	NetworkAccessPointID	M	ネットワークアクセスポイントに対する ID (マシンネームもしくは IP アドレス)。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Audit Source</b>  AuditMessage/ AuditSourceIdentification	<i>AuditSourceID</i>	M	発生源システムのユニークな ID。
	<i>AuditEnterpriseSiteID</i>	U	ネットワーク中の論理的な発生源システムの場所。AuditSourceIDを修飾するために使う。
	<i>AuditSourceTypeCode</i>	U	発生源システムのタイプ。 RFC3881 の規定に従う。

<b>Document URI</b>  (AuditMessage/ ParticipantObjectIdentification)	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(2) (システム)
	<i>ParticipantObjectTypeCodeRole</i>	M	EV(3) (レポート)
	<i>ParticipantObjectDataLifeCycle</i>	U	関係者オブジェクトのデータライフサイクルステージの ID。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectTypeCode</i>	M	EV(9, RFC-3881, “Report Number”)
	<i>ParticipantObjectSensitivity</i>	U	ParticipantObjectID に対するポリシー定義の機微性。 RFC3881 の規定に従う。
	<i>ParticipantObjectID</i>	M	<ihe:DocumentUniqueId/>の値
	<i>ParticipantObjectName</i>	C	インスタンスの名前。
	<i>ParticipantObjectQuery</i>	U	<i>not specialized</i>
<i>ParticipantObjectDetail</i>	M	The ParticipantObjectDetail にはひとつ以上のエレメントをセットする。 最初のエレメント: type に “Repository Unique Id”をセットし、value に<ihe:RepositoryUniqueId/>の値をセットする。 他のエレメント: type に“ihe:homeCommunityID”をセットし、value に homeCommunityID の値をセットする。	

17.1.6. Record Audit Event [ITI-20]におけるコード定義

Record Audit Event で使用するコードについて、以下に拡張コードを定義する。

表 17.1.6.1 トリガイイベントとイベントコード

トリガイイベント	説明	イベントコード
Patient Record	個人情報へのアクセスイベント。	EV(110110, DCM, “Patient Record”)
IHE-import	システム間通信による個人情報の入力イベント。	EV(110115, IHEJ, “IHE Import”)
IHE-export	システム間通信による個人情報の出力イベント。	EV(110116, IHEJ, “IHE Export”)
PIX-query	PIX クエリによる検索行為を表すイベント。	EV(110117, IHEJ, “PIX Query”)
PDQ-query	PDQ クエリによる検索行為を表すイベント。	EV(110118, IHEJ, “PDQ Query”)

XDS-query	XDS（ストアド）クエリによる検索行為を表すイベント。	EV(110119,IHEJ, “XDS Query”)
-----------	-----------------------------	------------------------------

Context ID 400\_IHEJ

Audit Event ID

タイプ：拡張可能 バージョン：20131025

符号化体系指定子	コード値	コード意味
DCM	110100	Application Activity
DCM	110101	Audit Log Used
DCM	110102	Begin Transferring DICOM Instances
DCM	110103	DICOM Instances Accessed
DCM	110104	DICOM Instances Transferred
DCM	110105	DICOM Study Deleted
DCM	110106	Export
DCM	110107	Import
DCM	110108	Network Entry
DCM	110110	Patient Record
DCM	110112	Query
DCM	110113	Security Alert
DCM	110114	User Authentication
IHEJ	110115	IHE Import
IHEJ	110116	IHE Export
IHEJ	110117	PIX Query
IHEJ	110118	PDQ Query
IHEJ	110119	XDS Query

Context ID 401\_IHEJ

Audit Event Type Code

タイプ：拡張可能 バージョン：20131025

符号化体系指定子	コード値	コード意味
DCM	110120	Application Start
DCM	110121	Application Stop
DCM	110122	Login
DCM	110123	Logout
DCM	110124	Attach
DCM	110125	Detach

DCM	110126	Node Authentication
DCM	110127	Emergency Override Started
DCM	110128	Network Configuration
DCM	110129	Security Configuration
DCM	110130	Hardware Configuration
DCM	110131	Software Configuration
DCM	110132	Use of Restricted Function
DCM	110133	Audit Recording Stopped
DCM	110134	Audit Recording Started
DCM	110135	Object Security Attributes Changed
DCM	110136	Security Roles Changed
DCM	110137	User Security Attributes Changed
IHE Transactions	ITI-8	Patient Identity Feed
IHE Transactions	ITI-9	PIX Query
IHE Transactions	ITI-10	PIX Update Notification
IHE Transactions	ITI-18	Registry Stored Query
IHE Transactions	ITI-21	Patient Demographics Query
IHE Transactions	ITI-30	Patient Identity Management
IHE Transactions	ITI-41	Provide and Register Document Set-b
IHE Transactions	ITI-42	Register Document Set-b
IHE Transactions	ITI-43	Retrieve Document Set
IHE Transactions	ITI-44	Patient Identity Feed
IHE Transactions	ITI-45	PIX Query
IHE Transactions	ITI-46	PIX Update Notification
IHE Transactions	ITI-47	Patient Demographics Query

使用するコード定義に関する原典として、以下の文書を参照すること。

Digital Imaging and Communications in Medicine (DICOM)

Part 16: Content Mapping Resource

JAHIS ヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約 Ver,2.0

7.10 イベントIDおよびコード表